

(様式第10)

自医病総第 号

令和 5 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 自治医科大学
理事長 大石 利雄

自治医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒102-0093 東京都千代田区平河町2丁目6番3号
氏名	学校法人自治医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

自治医科大学附属病院

3 所在の場所

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1
電話(0285)44-2111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input checked="" type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科	<input type="radio"/>	
診療実績							
上記のほか、腎臓内科、血液科、内分泌代謝科、臨床腫瘍科、感染症科、緩和ケア科として医療を提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
上記のほか、消化器外科、乳腺科、腎臓外科、移植外科として医療を提供している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	形成外科	2	美容外科	3	リハビリテーション科	4	病理診断科	5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位: 床)
56	1	0	0	1,075	1,132	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	747	331	780.2
歯科医師	25	45	26.6
薬剤師	90	1	90.6
保健師	5	0	5
助産師	73	1	73.8
看護師	1296	32	1320.8
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	9	1	9.4
管理栄養士	28	1	28.5

職種	員数
看護補助者	12
理学療法士	29
作業療法士	10
視能訓練士	9
義肢装具士	0
臨床工学士	33
栄養士	15
歯科技工士	3
診療放射線技師	85

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	125
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	15	
その他の技術員	17	
事務職員	201	
その他の職員	1	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	83	眼科専門医	12
外科専門医	60	耳鼻咽喉科専門医	11
精神科専門医	8	放射線科専門医	24
小児科専門医	43	脳神経外科専門医	18
皮膚科専門医	7	整形外科専門医	19
泌尿器科専門医	7	麻酔科専門医	20
産婦人科専門医	28	救急科専門医	7
		合計	347

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (川合 謙介) 任命年月日 令和 4 年 4 月 1日

令和3年4月～ 医療の質向上・安全推進委員会、QSマネージャー会議、自治医科大学附属病院医療安全管理委員会等の医療安全管理に係る会議のオブザーバーとして活動。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	789 人	11 人	800 人
1日当たり平均外来患者数	2,368 人	137 人	2,505 人
1日当たり平均調剤数		1,955	剤
必要医師数		217	人

必要歯科医師数	2	人
必要薬剤師数	27	人
必要(准)看護師数	484	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	有
集中治療室	2,909.39 m ²	鉄筋造 鉄筋コンクリート造	人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	34 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	587.55	m ²	病床数	8 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]	床面積			85	m ²
	[共用室の場合]	共用する室名			DI・TDM室	
化学検査室	214 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動血液ガス分析装置、自動免疫測定装置、 自動細胞解析装置、血小板凝集装置 等		
細菌検査室	92 m ²	〃	(主な設備)	電気泳動装置等		
病理検査室	1,208.57 m ²	〃	(主な設備)	感染防止対策用解剖台、ラミナーフローユニット、腎生検 イメージングシステム、染色装置用コントロールシステム 等		
病理解剖室	322.4 m ²	〃	(主な設備)	解剖台、マイクロカuttingマシン 等		
研究室	16,460 m ²	〃	(主な設備)	机、PC、コピー機、書棚 等		
講義室	400 m ²	〃	室数	2 室	収容定員	130×2 人
図書室	3,678 m ²	〃	室数	- 室	蔵書数	241,550 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	79.9	%	逆紹介率	72.4	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		21,251		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		21,310		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,279		人
	D: 初診の患者の数		29,433		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
尾澤 巖	地方独立行政法人 栃木 県立がんセンター理事長 ／センター長	○	医療機関の管理者として、医療機関の安全管理を総括・管理している経験を有する立場で意見を述べる者	無	1
内山 聖	(公財)新潟県保健衛生 センター副会長 長岡崇徳大学 常任理事		医療機関の管理者として、医療機関の安全管理を総括・管理している経験を有する立場で意見を述べる者	無	1
山口 育子	認定NPO法人 ささえあ い医療人権センターCO ML理事長		患者団体の理事長として医療問題に精通しており、医療を受ける者の代表として意見を述べる者	無	2
大槻 マミ太郎	自治医科大学副学長		自治医科大学副学長として、大学理事の立場で意見を述べる者	無	1
齋藤 正昭	自治医科大学附属さいたま医療センター医療安全管理室 室長		自治医科大学附属さいたま医療センター医療安全管理室長として、医療安全管理の専門の立場から意見を述べる者	無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
病院ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	9	56	ベーチェット病	79
2	筋萎縮性側索硬化症	50	57	特発性拡張型心筋症	48
3	脊髄性筋萎縮症	9	58	肥大型心筋症	9
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	20	60	再生不良性貧血	54
6	パーキンソン病	266	61	自己免疫性溶血性貧血	5
7	大脳皮質基底核変性症	3	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	63
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トウス病	5	65	原発性免疫不全症候群	10
11	重症筋無力症	99	66	IgA腎症	71
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	65
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	87	68	黄色靱帯骨化症	9
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	25	69	後縦靱帯骨化症	60
15	封入体筋炎	5	70	広範脊柱管狭窄症	19
16	クドウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	58
17	多系統萎縮症	19	72	下垂体性ADH分泌異常症	31
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	67	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライゾゾーム病	17	74	下垂体性PRL分泌亢進症	15
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	5
21	ミトコンドリア病	13	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	5
22	もやもや病	22	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	33
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	83
24	亜急性硬化性全脳炎	1	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	1
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	5
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	27	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	1	84	サルコイドーシス	119
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	105
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	27
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	13
34	神経線維腫症	17	89	リンパ管筋腫症	9
35	天疱瘡	47	90	網膜色素変性症	22
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	17	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	14
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	31
40	高安動脈炎	37	95	自己免疫性肝炎	20
41	巨細胞性動脈炎	10	96	クローン病	371
42	結節性多発動脈炎	9	97	潰瘍性大腸炎	297
43	顕微鏡的多発血管炎	58	98	好酸球性消化管疾患	9
44	多発血管炎性肉芽腫症	31	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	3
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	39	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	7	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	4	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	11	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	432	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	177	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	77	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	69	107	若年性特発性関節炎	11
53	シェーグレン症候群	64	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	23	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	9	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	6	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	8
113	筋ジストロフィー	48	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	1	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	11
118	脊髄髄膜瘤	4	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	10
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性 白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	3	179	ウィリアムズ症候群	2
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	1	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	1	188	多脾症候群	1
139	先天性大脳白質形成不全症	1	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	2	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	2	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	2	194	ソトス症候群	1
145	ウエスト症候群	10	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	1	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	2	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	11	208	修正大血管転位症	2
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	1
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	2

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	1
212	三尖弁閉鎖症	2	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	2	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2	262	原発性高カイトミクロン血症	3
215	ファロー四徴症	11	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	2	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	3	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	3	266	家族性地中海熱	3
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	6	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	2	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	72	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	271	強直性脊椎炎	15
224	紫斑病性腎炎	9	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	2	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	274	骨形成不全症	1
227	オスラー病	9	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	2
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	5	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	1	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	1
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	3
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	1	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	70
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	2
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	4
251	尿素サイクル異常症	3	299	嚢胞性線維症	3
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	27
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	1
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	1
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	17

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナパン病	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	2
308	進行性白質脳症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
310	先天異常症候群	2	326	大理石骨病	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	328	前眼部形成異常	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	329	無虹彩症	2
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	2
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	331	特発性多中心性キャスルマン病	10
316	カルニチン回路異常症	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	2
317	三頭酵素欠損症	1	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
318	シトリン欠損症	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0	335	ネフロン癆	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0	336	家族性低 β リポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
321	非ケトーシス型高グリシン血症	0	337	ホモシスチン尿症	0
322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	1

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	164
合計患者数(人)	4,141

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	報告書管理体制加算
歯科外来診療環境体制加算2	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
歯科診療特別対応連携加算	ハイリスク妊婦管理加算
特定機能病院入院基本料(一般病棟 7対1 精神病棟 10対1)、入院栄養管理体制加算	ハイリスク分娩管理加算
臨床研修病院入院診療加算	呼吸ケアチーム加算
救急医療管理加算	術後疼痛管理チーム加算
超急性期脳卒中加算	後発医薬品使用体制加算1
妊産婦緊急搬送入院加算	病棟薬剤業務実施加算1
診療録管理体制加算1	病棟薬剤業務実施加算2
医師事務作業補助体制加算1 30対1	データ提出加算2・4
急性期看護補助体制加算25対1(看護補助者5割以上)、夜間100対1急性期看護補助体制加算、夜間看護体制加算、看護補助体制充実加算	入退院支援加算1
看護職員夜間12対1配置加算1	入院時支援加算
療養環境加算	入退院支援加算3
重症者等療養環境特別加算	認知症ケア加算2
無菌治療室管理加算1	せん妄ハイリスク患者ケア加算
無菌治療室管理加算2	精神疾患診療体制加算
緩和ケア診療加算	精神科急性期医師配置加算2のイ
精神科身体合併症管理加算	排尿自立支援加算
精神科リエゾンチーム加算	地域医療体制確保加算
摂食障害入院医療管理加算	救命救急入院料1+救急体制充実加算1(SER 24床)(精神疾患診断治療初回加算、早期離床・リハビリテーション加算、小児加算)
栄養サポートチーム加算	特定集中治療室管理料1(PICU 8床)(小児加算、早期離床・リハビリテーション加算)
医療安全対策加算1	特定集中治療室管理料2(ICU 20床)(早期離床・リハビリテーション加算、早期栄養介入管理加算、小児加算)
感染対策向上加算1	特定集中治療室管理料3(CCU 10床)(早期離床・リハビリテーション加算)
指導強化加算(感染対策向上加算1)	ハイケアユニット入院医療管理料1(早期離床・リハビリテーション加算)
患者サポート体制充実加算	総合周産期特定集中治療室管理料(MFICU 12床、NICU 15床)(成育連携支援加算)
重症患者初期支援充実加算	新生児治療回復室入院医療管理料(GCU 21床)

施設基準の種類	施設基準の種類
小児入院医療管理料1（プレイルーム加算）（無菌治療管理加算、養育支援体制加算）	
緩和ケア病棟入院料1	
児童・思春期精神科入院医療管理料	
看護職員処遇改善評価料	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	連携充実加算(外来腫瘍化学療法診療料)
ウイルス疾患指導料	ニコチン依存症管理料
外来栄養食事指導料(注3に掲げるがん専門管理栄養士が栄養食事指導を行う場合)	療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	がん治療連携計画策定料
糖尿病合併症管理料	肝炎インターフェロン治療計画料
がん性疼痛緩和指導管理料	外来排尿自立指導料
がん患者指導管理料イ	ハイリスク妊産婦連携指導料1
がん患者指導管理料ロ	こころの連携指導料(Ⅱ)
がん患者指導管理料ハ	薬剤管理指導料
がん患者指導管理料ニ	医療機器安全管理料1
外来緩和ケア管理料	医療機器安全管理料2
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	医療機器安全管理料(歯科)
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
糖尿病透析予防指導管理料	在宅患者訪問看護・指導料の注16に規定する専門管理加算
小児運動器疾患指導管理料	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
婦人科特定疾患治療管理料	在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
腎代替療法指導管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
一般不妊治療管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
生殖補助医療管理料1	有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼機能検査
二次性骨折予防継続管理料1	有床義歯咀嚼機能検査2のイ
二次性骨折予防継続管理料3	有床義歯咀嚼機能検査2の口及び咬合圧検査
下肢創傷処置管理料	精密触覚機能検査
院内トリアージ実施料	遺伝学的検査
外来放射線照射診療料	染色体検査の注2に規定する絨毛染色体検査
外来腫瘍化学療法診療料1	骨髄微小残存病変量測定
BRCA1/2遺伝子検査	内服・点滴誘発試験

施設基準の種類	施設基準の種類
がんゲノムプロファイリング検査	経気管支凍結生検法
先天性代謝異常症検査	画像診断管理加算 1
抗アデノ随伴ウイルス9型 (AAV9) 抗体	遠隔画像診断
抗HLA抗体 (スクリーニング検査) 及び抗HLA抗体 (抗体特異性同定検査)	ポジトロン断層撮影
HPV核酸検出及びHPV核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	CT撮影及びMRI撮影
検体検査管理加算 (I)	冠動脈CT撮影加算
検体検査管理加算 (IV)	心臓MRI撮影加算
国際標準検査管理加算	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
遺伝カウンセリング加算	外来化学療法加算 1
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	無菌製剤処理料
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	連携充実加算
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	心大血管疾患リハビリテーション料 (I)
胎児心エコー法	脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
ヘッドアップテイルト試験	運動器リハビリテーション料 (I)
人工臓器検査	呼吸器リハビリテーション料 (I)
長期継続頭蓋内脳波検査	がん患者リハビリテーション料
長期脳波ビデオ同時記録検査 1	リンパ浮腫複合的治療料
脳波検査判断料 1	歯科口腔リハビリテーション料 2
神経学的検査	経頭蓋磁気刺激療法
補聴器適合検査	救急患者精神科継続支援料
全視野精密網膜電図	児童思春期精神科専門管理加算
ロービジョン検査判断料	療養生活継続支援加算 (通院精神療法)
コンタクトレンズ検査料 1	認知療法・認知行動療法 1
小児食物アレルギー負荷検査	治療抵抗性統合失調症治療指導管理料
医療保護入院等診療料	頭蓋骨形成手術 (骨移動を伴うものに限る。)
静脈圧迫処置 (慢性静脈不全に対するもの)	癒着性脊髄くも膜炎手術 (脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
多血小板血漿処置	脳刺激装置植込術 (頭蓋内電極植込術を含む。) 及び脳刺激装置交換術
エタノールの局所注入 (甲状腺)	頭蓋内電極植込術 (脳深部電極によるもの (7本以上の電極による場合) に限る。)
エタノールの局所注入 (副甲状腺)	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術

施設基準の種類	施設基準の種類
人工腎臓	仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便失禁）
導入期加算3及び腎代替療法実績加算	仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便過活動膀胱）
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	角膜移植術（内皮移植加算）
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	羊膜移植術
血漿交換療法（1日につき）（難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法）	角結膜悪性腫瘍切除術
血漿交換療法（1日につき）（移植後抗体関連型拒絶反応治療）	緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
人工膵臓療法	緑内障手術（流出路再建術）（眼内法）
処置の休日加算1	緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
処置の時間外加算1	緑内障手術（濾過胞再建術）（needle法）
処置の深夜加算1	網膜再建術
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	植込型骨導補聴器（直接振動型）植込術
歯科技工加算	経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
センチネルリンパ節加算	人工中耳植込術
自家脂肪注入	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）
骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む）
後縦靭帯骨化症手術（前方進入によるもの）	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
椎間板内酵素注入療法	喉頭形成手術（甲状軟骨固定用器具を用いたもの）
腫瘍脊椎骨全摘術	内喉頭筋内注入術（ボツリヌス毒素によるもの）
内視鏡下脳腫瘍生検術	上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）
内視鏡下脳腫瘍摘出術	上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）
顎関節人工関節全置換術（歯科）	経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	補助人工心臓
乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用）	植込型補助人工心臓（非拍動流型）
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）	経皮的下肢動脈形成術
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術

施設基準の種類	施設基準の種類
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	内視鏡的逆流防止粘膜切除術
肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る。）	腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	腹腔鏡下噴門側胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下噴門側胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）	腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
内視鏡下筋層切開術	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膈腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
胸腔鏡下弁形成術	胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
経カテーテル弁置換術（経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術）	体外衝撃波胆石破碎術
胸腔鏡下弁置換術	腹腔鏡下肝切除術
不整脈手術 左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの）	移植用部分肝採取術（生体）（腹腔鏡によるもの）
経皮的中心隔心筋焼灼術	生体部分肝移植術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	同種死体肝移植術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）	体外衝撃波膵石破碎術
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極除去術	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）	腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
大動脈バルーンポンピング法（IABP法）	同種死体膵移植術

施設基準の種類	施設基準の種類
同種死体膵腎移植術	貯血式自己血輸血管理体制加算
生体部分小腸移植術	コーディネート体制充実加算
同種死体小腸移植術	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
内視鏡的小腸ポリープ切除術	手術の時間外加算 1
腹腔鏡下直腸切除・切除術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	手術の休日加算 1
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	手術の深夜加算 1
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	麻酔管理料（Ⅰ）
腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	麻酔管理料（Ⅱ）
同種死体腎移植術	放射線治療専任加算
生体腎移植術	外来放射線治療加算
膀胱水圧拡張術	高エネルギー放射線治療
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	1回線量増加加算
腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	強度変調放射線治療（IMRT）
人工尿道括約筋植込・置換術	画像誘導放射線治療（IGRT）
膀胱頸部形成術（膀胱頸部吊上術以外）、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術（鼠径部切開によるもの）	体外照射呼吸性移動体策加算
精巣内精子採取術	定位放射線治療
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	定位放射線治療呼吸移動対策加算
腹腔鏡下仙骨腫固定術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	画像誘導密封小線源治療加算
腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	病理診断管理加算 2
腹腔鏡下腔式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	悪性腫瘍病理組織標本加算
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	クラウン・ブリッジ維持管理料
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）	歯科矯正診断料
遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術	顎口腔機能診断料（顎変形症（顎離断等の手術を必要とするものに限る。）の手術前後における歯科矯正に係るもの）
体外式膜型人工肺管理料	口腔粘膜血管腫凝固術
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）（医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術）	顎関節人工関節全置換術（歯科）
輸血管管理料Ⅰ	歯科麻酔管理料
脳腫瘍覚醒下マッピング加算	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
1心拍毎の観血的血圧測定・非観血的血圧測定と左室拡張障害の関連	甲谷友幸 (研究代表者)	循環器内科学	300,000	補	科学研究費助成事業 (基盤研究C)
高齢者心不全の発症メカニズムを起立性血圧変動異常とフレイルから解明する	原田顕治 (研究代表者)	循環器内科学	400,000	補	科学研究費助成事業 (基盤研究C)
心房細動における家庭血圧計を用いた血圧管理指標の確立と心房細動検出に関する研究	渡部智紀 (研究代表者)	循環器内科学部門	500,000円	補	科学研究費助成事業 (基盤研究C)
冠動脈プラーク形成における拍動と局所血行動態の影響および降圧薬の効果に関する研究	高橋政夫 (研究代表者)	循環器内科学部門	500,000円	補	科学研究費助成事業 (基盤研究C)
新規マルチセンサー搭載自由行動下血圧脈波計を用いた心不全病態の解明と増悪予防	成田圭佑 (研究代表者)	循環器内科学部門	1,100,000	補	科学研究費助成事業 (研究活動スタート支援)
血圧遠隔モニタリング管理システムを用いた震災被災者の心血管リスク低減に関する研究	星出 聡 (研究代表者)	循環器内科学部門	500,000円	補	科学研究費助成事業 (基盤研究C)
新規マルチセンサー自由行動下血圧脈波計を用いた心不全スクリーニング法の探索	成田圭佑 (研究代表者)	循環器内科学部門	900,000円	補	科学研究費助成事業 (若手研究)
生活習慣改善における『デジタル行動変容』評価指標の研究開発	苅尾七臣 (研究代表者)	循環器内科学部門	13,755,500円	委	日本医療研究開発機構
剪断応力に対する血管内皮細胞/平滑筋細胞の相互作用が二尖弁大動脈拡大に及ぼす影響	川人宏次	心臓血管外科	¥1,430,000	補	日本学術 振興協会
A型大動脈解離シミュレーター回路を用いたステントグラフト治療の解剖学的要件の検討	荒川衛	心臓血管外科	¥1,300,000	補	日本学術 振興協会
クローン病由来大腸菌に対するバクテリオファージの新規検査治療法としての基礎的検討	山本 博徳	消化器内科学	4,290,000/3年分 (2022～2024年度)	補	文科 基盤C
非アルコール性脂肪性肝炎と心疾患における酸化HDLの役割解明	五家 里栄	消化器内科学	4,160,000/3年分 (2021～2023年度)	補	文科 基盤C
小児から成人の消化管過誤腫性腫瘍好発疾患群の医療水準とQOL向上のための研究	坂本博次	消化器内科学	5,000,000/2年分 (2023～2024年度)	補	厚労科研 難治性疾患政策
オールジャパン体制によるIgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	菅野 敦	消化器内科学	100,000/1年 (2023年度)	補	厚労科研 難治性疾患政策
クテリオファージを用いた非アルコール性脂肪性肝炎のコロナ代謝評価と治療応用	三浦 光一	消化器内科学	4,290,000/3年分 (2022～2024年度)	補	文科 基盤C
クローン病の小腸狭窄の内視鏡的定量的評価の意義とバルーン拡張術後再狭窄要因の解明	矢野 智則	消化器内科学	4,810,000/5年分 (2023～2027年度)	補	文科 基盤C

非アルコール性肝疾患におけるフェロトーシスの役割	前田 浩史	消化器内科学	4,550,000/3年分 (2023~2025年度)	補	若手研究
上部消化管癌根治手術における迷走神経切除の意義—腫瘍免疫学的観点からの検討	細谷好則	消化器一般移植外科	1,000,000	補	文部科学省科学研究費
がんの転移・免疫逃避における接触性膜断片移行(トロゴサイトーシス)の意義の解明	齋藤心	消化器一般移植外科	1,000,000	補	文部科学省科学研究費
がん免疫療法の奏効に対する好中球細胞外トラップ(NETs)の意義の解明	金丸理人	消化器一般移植外科	1,800,000	補	文部科学省科学研究費
腸管虚血再灌流障害におけるカスペーゼ11およびPyroptosisの役割の解明	伊藤誉	消化器一般移植外科	1,600,000	補	文部科学省科学研究費
糖尿病合併大腸癌の発生・進展過程における好中球細胞外トラップの意義の解明	鯉沼広治	消化器一般移植外科	1,400,000	補	文部科学省科学研究費
術後膵液瘻ゼロを目指した膵断端処置具の新規開発	兼田裕司	消化器一般移植外科	1,600,000	補	文部科学省科学研究費
消化器がんに対する免疫応答における好中球細胞外トラップの意義の解明	佐田友藍	消化器一般移植外科	700,000	補	文部科学省科学研究費
胆道癌の転帰に対する体組成の影響	渡部純	消化器一般移植外科	1,200,000	補	文部科学省科学研究費
好中球細胞外トラップに着目した糖尿病合併がんの特殊性の解明と治療への応用	佐田尚宏	消化器一般移植外科	5,400,000	補	文部科学省科学研究費
進行消化器癌患者における低比重好中球の抹消への誘導機構と腫瘍学的意義の解明	熊谷祐子	消化器一般移植外科	1,800,000	補	文部科学省科学研究費
手術室内での安全で効率的な実地修練のための、手術外での学習評価法の開発	遠藤和洋	消化器一般移植外科	400,000	補	文部科学省科学研究費
糖尿病合併乳癌の発生における好中球細胞外トラップの役割の解明	芝聡美	消化器一般移植外科	1,600,000	補	文部科学省科学研究費
化学放射線療法耐性直腸癌に対するフェロトーシス誘導療法の開発	井上賢之	消化器一般移植外科	1,200,000	補	文部科学省科学研究費
術後膵液瘻ゼロを目指した膵断端処置具の新開発	兼田裕司	消化器一般移植外科	8,041,785	委	AMED
気道組織における病的モデリング(線維化)機構の解明と病的制御治療戦略の基盤構築	間藤尚子	呼吸器内科	3,250,000□	委	AMED (分担)

PD-L1陽性エクソソームを制御するCMTM分子群の解明と抗腫瘍免疫への展開	前門戸任	呼吸器内科	1,700,000	補	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
癌性胸膜炎における免疫チェックポイント阻害剤の治療予測系の確立と効果増強戦略	間藤尚子	呼吸器内科	1,710,071□	補	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
特発性肺線維症の細気管支化における血管性ニッチの機能解明とその制御	久田 修	呼吸器内科	1,600,000	補	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
改良コンディショナルリプログラミングによる2型肺胞上皮細胞の新規培養法と機能解析	久田 修	呼吸器内科	299,355	補	文部科学省科学研究費(基盤研究C)
肺の恒常性維持・生体防御・組織修復を標的とした難治性呼吸器疾患治療法の開発と応用	久田 修	呼吸器内科	130,000	補	文科省科研費(基盤研究B) 分担
低価格3Dプリンター用いた気管支鏡シミュレーション教育の効果検証	中山雅之	呼吸器内科	1,656,613□	補	文科省科研費(若手研究)
肺がん免疫療法における新規効果予測検査の開発研究	澤幡美千瑠	呼吸器内科	754,539□	補	文科省科研費(若手研究)
IL-10発現アデノ随伴ウイルスベクターによる難治性呼吸器疾患の新規治療法開発	黒崎史朗	呼吸器内科	2,588,677	補	文科省科研費(若手研究)
びまん性肺疾患に関する調査研究	坂東政司	呼吸器内科	300,000	補	厚生労働科学研究費(難治性疾患政策研究事業)
難治性血管炎の医療水準・患者QOL向上に資する研究	坂東政司	呼吸器内科	142,000□	補	厚生労働科学研究費(難治性疾患政策研究事業)
eラーニングと肺模擬臓器を用いた胸腔鏡手術手技教育法の確立	山本真一	呼吸器外科	¥1,950,000	補	日本学術振興協会
革新的技術による微小転移の可視化と転移初期段階の分子機構の解明	柴野智毅	呼吸器外科	¥1,560,000	補	日本学術振興協会
インドネシアでの、てんかん診療の質向上をめざしたデジタル脳波のワイドバンド成分の記録解析普及の実装研究	川合謙介	脳神経外科	325,000	補	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 AMED
希少てんかんに関する包括的研究	川合謙介	脳神経外科	600,000	補	厚生労働省
長期電気刺激と外科的介入による大脳マルチスケールでの機能的及び形態的变化の研究	川合謙介	脳神経外科	4,420,000 1,300,000	補	文部科学省 基盤(B)
ヒト皮質脳波解析によるASMRの機序の解明	石下洋平	脳神経外科	650,000	補	文部科学省

					若手研究
大脳皮質-海馬ネットワークへの侵襲的計測・介入による時間見積機能の神経基盤の解明	大貫良幸	脳神経外科	650,000	補	文部科学省 若手研究
非接触式3Dスキャナを活用した脳神経外科手術ARナビゲーションシステムの開発	大谷 啓介	脳神経外科	780,000	補	文部科学省 若手研究
ヒト嗅覚情報処理の神経基盤解明	井林 賢志	脳神経外科	1,040,000	補	文部科学省 若手研究
腎幹細胞の老化メカニズムの解明	大野 和寿	腎臓内科学部門	1,000,000	補	文部科学省科学研究費補助金
尿細管特異的Nrf2欠損による腎間質線維化増強作用に関する研究	菱田 英里華	腎臓内科学部門	1,300,000	補	文部科学省科学研究費補助金
腎組織内薬物分布動態とメタボローム解析を融合したタクロリムス腎症機序解析	岩見 大基	腎臓外科	¥4,940,000	補	科学研究費
ヒト破骨細胞分化を評価するための新規共存培養系の開発	佐藤浩二郎	アレルギー膠原病学	169万円	補	文部科学省科学研究費補助金
新規核酸医薬を用いた実用的腹膜播種予防法の開発	大澤 英之	腫瘍センター 臨床腫瘍部	4,810,000円	補	文部科学省
頭頸部癌放射線治療における免疫チェックポイント分子機構の予後への影響	白井克幸	自治医科大学病院放射線治療部	研究経費 4,550,000 円 直接経費 3,500,000円	補	科学研究費補助金 基盤研究C
急性弛緩性麻痺等の神経疾患に関する網羅的病原体検索を含めた原因及び病態の究明、治療法の確立に資する臨床疫学研究(22HA1003)	森 壘	自治医科大学病院画像診断部	総額950万円	補	令和5年度厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)
新規MRI撮像法を用いた末梢性顔面神経麻痺の画像評価法の確立、予後評価の検討.	藤井裕之	自治医科大学病院画像診断部	研究経費 4,550,000 円 直接経費 3,500,000円	補	科学研究費補助金 若手研究
CHESS法を用いた結節性硬化症の中枢神経病変の画像・病理学的検討.	藤井裕之	自治医科大学病院画像診断部	総額2,000,000円	補	公益信託康本徳守記念結節性硬化症関連神経難病研究基金
科研費助成事業(基盤研究C)				補	文科省
精神疾患を有する患者による絵画のdeep learningを用いた画像解析	須田史朗	精神医学	2,340,000		
科研費助成事業(基盤研究C)				補	文科省
トラマドール中毒の機序解明と治療薬の開発	塩田勝利	精神医学	2,340,000		

<p>科研費助成事業(研究活動スタート支援)</p> <p>精神科病院における認知症による真の死亡割合の調査</p>	佐藤謙伍	精神医学	1,430,000	補	文科省
<p>表皮融解性魚鱗癬の皮膚における機械的ストレス受容機構と角化異常の機序解明</p>	木村 未歩	皮膚科学	200000	補	文科省 科研費
<p>Role of IL-33 in Squamous cell carcinoma metastasis and proliferation</p>	アンサリ トゥーバ・マサラット	皮膚科学	1,000,000	補	文科省 科研費
<p>How genetic abnormality in keratinocytes, not in melanocytes, causes pigmentary skin disorders?</p>	ホセイン エムディラジブ	皮膚科学	1,000,000	補	文科省 科研費
<p>肝移植後拒絶反応の病態解明と直接イオン化法による革新的迅速診断法の開発</p>	平田雄大	移植外科	2,600,000	補	文科省
<p>エクソゾームによる前転移ニッチ形成における好中球細胞外トラップの意義</p>	大西康晴	移植外科	1,560,000	補	文科省
<p>胆汁酸分析と質量分析イメージング法による小児肝疾患早期診断ならびに病態解明</p>	佐久間康成	移植外科	1,560,000	補	文科省
<p>幹細胞消耗性病態の機能回復を目的とした肥沃化再生医療の開発</p>	吉村 浩太郎	形成外科学	6,760,000	補	文部科学省
<p>毛包幹細胞スプレー噴霧による皮膚上皮化再生治療の開発</p>	吉村 浩太郎	形成外科学	1,560,000	補	文部科学省
<p>生体内系譜追跡による脂肪由来幹細胞の機能解析に基づく新規再生医療の開発</p>	須永 中	形成外科学	2,210,000	補	文部科学省
<p>幹細胞培養上清の浄化濃縮法の開発と再生医療への応用</p>	呉 雲燕	形成外科学	1,300,000	補	文部科学省
<p>難治性皮膚潰瘍に対するヒト脂肪由来血管内皮前駆細胞を利用した治療法の開発研究</p>	齋藤 夏美	形成外科学	1,040,000	補	文部科学省
<p>ヒト脂肪組織マトリックス微小細片の製造法の最適化、特性解析および再生医療への応用</p>	吉里 勝利	形成外科学	1,300,000	補	文部科学省

浄化濃縮幹細胞培養上清を利用した放射線障害組織に対する新たな再生治療法の確率	河野 由布子	形成外科学	1,690,000	補	文部科学省
複数の幹細胞由来浄化濃縮培養上清を駆使した糖尿病性難治性潰瘍の新規治療法の開発	三戸 那奈子	形成外科学	1,300,000	補	文部科学省
難治性熱傷・潰瘍に対する毛包由来上皮系幹細胞などを用いた革新的再生治療の開発	木下 幹雄	形成外科学	1,105,000	補	文部科学省
脂肪幹細胞投与による確定的放射線障害の予防治療の開発	櫻井 淳	形成外科学	1,300,000	補	文部科学省
確定的放射線障害に対する、脂肪幹細胞の再生能を用いた予防的治療法の開発	古川 航多	形成外科学	1,300,000	補	文部科学省
脂肪由来幹細胞および血管内皮前駆細胞の浄化濃縮培養上清による糖尿病足病変の治療	井上 啓太	形成外科学	1,690,000	補	文部科学省
幹細胞含有細片脂肪組織を用いた新規再生治療と製造デバイスの開発	森田 侑平	形成外科学	1,560,000	補	文部科学省
脂肪由来幹細胞の生体内系譜追跡を用いた皮膚放射線障害の病態解明と新規治療法の開発	森下 悠也	形成外科学	1,430,000	補	文部科学省
上皮系毛包乾細胞を用いた熱傷・難治性潰瘍に対する再生治療法の開発	加藤 晴之輔	形成外科学	1,560,000	補	文部科学省
リンパ浮腫における脂肪増生の機序解明と新規治療法の開発	藤木 政英	形成外科学	1,560,000	補	文部科学省
脂肪幹細胞を用いた確定的放射線障害に対する予防的治療法の開発	樋貝 詩乃	形成外科学	1,560,000	補	文部科学省
子宮内膜異型増殖症・子宮体癌妊孕性温存療法に対するメトホルミンの適応拡大にむけた多施設共同医師主導治験	藤原 寛行	産科婦人科学	390,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
思春期女性のHPVワクチン公費助成開始後における子宮頸癌のHPV16/18陽性割合の推移に関する疫学研究	藤原 寛行	産科婦人科学	325,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
妊娠28週未満発症の早産期前期破水妊婦に対するアジスロマイシン投与による気管支肺異形成の予防法の開発	大口 昭英	産科婦人科学	18,249,999	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

新生児ヘモクロマトーシスに対する胎内ガンマグロブリン大量静注療法の医師主導治験	高橋 宏典	産科婦人科学	1,072,240	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
バソヒビン2を標的とした卵巣がん新規治療に関する基礎研究	嗟峨 泰	産科婦人科学	1,300,000	補	文部科学省学術研究 助成基金助成金 基盤研究(C)
CRISPR/Cas9とAAVベクターを組み合わせた子宮頸癌に対する分子標的治療	葭葉 貴裕	産科婦人科学	1,430,000	補	文部科学省学術研究 助成基金助成金 若手研究
妊娠初期の血中microRNAを用いた癒着胎盤における新規診断法の構築	高橋 宏典	産科婦人科学	1,170,000	補	文部科学省学術研究 助成基金助成金 基盤研究(C)
胎盤由来エクソソームによる妊娠高血圧腎症の予知法に関する研究	鈴木 寛正	産科婦人科学	1,430,000	補	文部科学省学術研究 助成基金助成金 基盤研究(C)
血管新生および微小管調節因子バソヒビン2を標的とした卵巣癌治療	小柳 貴裕	産科婦人科学	1,430,000	補	文部科学省学術研究 助成基金助成金 基盤研究(C)
母体血中non-codingRNAによる妊娠高血圧腎症の発症予知法の開発	小古山 学	産科婦人科学	1,430,000	補	文部科学省学術研究 助成基金助成金 若手研究
中耳の可視化による中耳炎の鑑別診断法の確立ー治療適正化のためにー	伊藤 真人	とちぎ子ども医療センター	1,300,000	補	学術研究助成基金助成金 (文部科学省)
眼底画像とサイトカイン濃度のAI解析による加齢黄斑変性病態の解明基盤構築	高橋 秀徳	眼科学	800,000	補	文部科学省科学研究 費補助金
慢性化した網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫の新規炎症マーカーの同定	新井 悠介	眼科学	2,400,000	補	文部科学省科学研究 費補助金
深層学習を用いた視野検査結果予測	伊野田 悟	眼科学	700,000	補	文部科学省科学研究 費補助金
造影を利用したカラー写真における網膜非灌流領域の深層学習による病態解明基盤構築	坂本 晋一	眼科学	1,500,000	補	文部科学省科学研究 費補助金
下大静脈・大動脈遮断時の大静脈系血行動態の解明	伊澤祥光	自治医科大学 救急医学講座	¥390,000	委	科学研修費助成事業
非閉塞性腸間膜虚血に対する水素ガス吸入療法の治療効果の解明	田中保平	自治医科大学 救急医学講座	¥1,040,000	委	科学研修費助成事業

A novel treatment for REBOA complications: Hydrogen gas inhalation therapy to alleviate oxidative stress due to ischemia-reperfusion injury	松村洋輔	千葉大学 大学院医学研究院	¥858,000	補	科学研修費助成事業
一般外科医のための外傷診療DCRトレーニングコース』開発における有用性の証明	村上壮一	北海道大学 大学病院	¥65,000	補	科学研修費助成事業
能動的人工顎関節の開発	早坂 純一	歯科口腔外科	300,000 (※22年度配分額)	補	科研費基盤C
ミトコンドリア病細胞死阻止機構の解明と創薬	小坂 仁	小児科学	3,900,000	補	文部科学省
オートファジーの動的なライブイメージング解析による疾患病態の解明と創薬治療開発	村松 一洋	小児科学	1,100,000	補	文部科学省
小児非ダウン症急性巨核芽球性白血病の新規分子標的探索	嶋田 明	小児科学	800,000	補	文部科学省
妊娠高血圧症候群と早産低出生体重児の心血管疾患・腎疾患関連遺伝子メチル化との関連	河野 由美	小児科学	1,200,000	補	文部科学省
ニューロメランMRIと脳機能検査を用いたADHDの脳内ホルモン機能検証	門田 行史	小児科学	1,100,000	補	文部科学省
遺伝子多型はADHD児の脳の薬物応答特性を変えるのか？	門田 行史	小児科学	800,000	補	文部科学省
MECP2の発現制御によるRett症候群/MECP2重複症候群の遺伝子治療開発	宮内 彰彦	小児科学	3,933,334	補	文部科学省
難治性小児急性リンパ性白血病患者に対するがん免疫療法における腸内環境解析	川原 勇太	小児科学	1,000,000	補	文部科学省
神経変性疾患SENDAの病態解明とオートファジーを標的とした新規治療開発	月田 貴和子	小児科学	700,000	補	文部科学省
ランゲルハンス細胞組織球症における骨病変バイオマーカーの確立	森本 哲	小児科学	600,000	補	文部科学省
遺伝性白質疾患・知的障害をきたす疾患の診断・治療・研究システム構築	小坂 仁	小児科学	15,000,000	補	厚生労働省
アポモルフィンのLeigh脳症に対する治験準備	小坂 仁	小児科学	54,000,000	委	AMED
低出生体重児の成長・発達評価手法の確立のための研究	河野 由美	小児科学	7,693,000	補	厚生労働省

Niemann-Pick病C型に対する遺伝子治療開発	山形 崇倫	小児科学	76,000,000	委	AMED
オートファジー病SENDA/BPANに対する遺伝子治療開発	村松 一洋	小児科学	19,000,000	委	AMED
オルニチントランスカルバミラーゼ(OTC)欠損症の遺伝子治療開発	村松 一洋	小児科学	57,000,000	委	AMED
開腹手術後の小児に対する腸内細菌叢モニタリングを用いた診断・治療	薄井佳子	小児外科	4,030,000	補	科研費
循環器病に対する複合リハビリテーションを含むリハビリテーションの現状と課題の明確化のための研究	藤本 茂	神経内科	8,000,000	補	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業
脳出血超急性期患者への遺伝子組換え活性型VII因子投与の有効性と安全性を検証する研究者主導国際臨床試験	藤本 茂	神経内科	400,000	委	AMED臨床研究・治験推進研究事業
心房細動を伴う脳梗塞における適切な直接経口抗凝固薬開始時期の探求	藤本 茂	神経内科	400,000	補	国立循環器病研究センター循環器病研究開発費
ロングリードシーケンサーを用いた筋強直性ジストロフィー2型伸長リピート構造の解明	松浦 徹	神経内科	300,000	補	科学研究費助成事業基盤研究C
MAIT細胞による脳梗塞急性期病態制御機構の解明と新規治療開発の基盤的研究	田中 亮太	神経内科	1,100,000	補	科学研究費助成事業基盤研究C
非翻訳領域リピート病-SCA36-の多系統に渡る神経障害の病態解明	松菌 構佑	神経内科	1,200,000	補	文部科学省科学研究費若手研究(B)

計130件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Fujiwara T, McManus RJ, Kario K.	Management of hypertension in the digital era: Perspectives and future directions	Hipertens Riesgo Vasc・2022	Review
2	Harada K, Kario K.	The dawn of a new era of targeted therapies for heart failure with preserved ejection fraction (HFpEF)	Hypertens Res・2022	Others
3	Hoshide S, Mogi M, Kario K.	Current status of hypertension and treatment in Asia	Hypertens Res・2022	Others
4	Hoshide S, Mogi M, Kario K.	The next stage of hypertension management in Asia	Hypertens Res・2022	Others
5	Hoshide S, Nishiyama A, Mogi M, et al.	Preface-Special issue for hypertension in Asia: from the Okinawa declaration to the ISH 2022	Hypertens Res・2022	Others
6	Hoshide S, Yoshida T, Mizuno H, et al.	Association of Night-to-Night Adherence of Continuous Positive Airway Pressure With Day-to-Day Morning Home Blood Pressure and Its Seasonal Variation in Obstructive Sleep Apnea	J Am Heart Assoc・2022	Original Article
7	Hoshide S, Yoshihisa A, Tsuchida F, et al.	Pulse transit time-estimated blood pressure: a comparison of beat-to-beat and intermittent measurement	Hypertens Res・2022	Original Article
8	Kabutoya T.	Potassium and Vascular Health: Good Medicine Tastes Bitter.	J Atheroscler Thromb・2022	Others
9	Kabutoya T, Hoshide S, Kario K.	Notched P-wave on digital electrocardiogram predicts cardiovascular events in patients with cardiovascular risks: The Japan Morning Surge Home Blood Pressure (J-HOP) Study	Cardiology・2022	Original Article
10	Kabutoya T, Imai Y, Aoyama Y, et al.	Leadless Pacemaker Implantation for a Super-elderly Woman with a Mediastinal Tumor	Intern Med・2022	Case report
11	Kabutoya T, Imai Y, Okuyama T, et al.	Usefulness of Optimization of Interventricular Delay Using an Electrical Cardiometry Method in Patients with Cardiac Resynchronization Therapy Implantation	Int Heart J・2022	Original Article
12	Kabutoya T, Kario K.	P-wave changes as an index of hypertensive organ damage and a predictor of cardiovascular events: can the P wave be used to assess atrial reverse remodeling?	Hypertens Res・2022	Others
13	Kamioka M, Hijioka N, Nodera M, et al.	Electrophysiological properties and involvement of anatomical factors for the prediction of intramural origin in patients with ventricular tachyarrhythmia arising from the left ventricular outflow tract.	J Interv Card Electrophysiol・2022	Original Article
14	Kana Kubota, Gerhard-Paul Diller, Aleksander Kempny, et al.	Surgical pulmonary valve replacement at a tertiary adult congenital heart centre in the current era.	Intern J Cardio Congenital Heart Disease・2022	Case report
15	Kario K, Chia YC, Siddique S, et al.	Seven-action approaches for the management of hypertension in Asia - The HOPE Asia network	J Clin Hypertens (Greenwich)・2022	Case report
16	Kario K, Chia YC, Wang JG.	The HOPE Asia Network activity 2022: Towards better hypertension management in Asia	J Clin Hypertens (Greenwich)・2022	Review
17	Kario K, Harada N, Okura A.	Digital Therapeutics in Hypertension: Evidence and Perspectives	Hypertension・2022	Review
18	Kario K, Harada N, Okura A.	The first software as medical device of evidence-based hypertension digital therapeutics for clinical practice	Hypertens Res・2022	Review
19	Kario K, Hasebe N, Okumura K, et al.	Home Blood Pressure Can Predict the Risk for Stroke/Bleeding Events in Elderly Patients With Nonvalvular Atrial Fibrillation From the ANAFIE Registry	Hypertension・2022	Original Article
20	Kario K, Hoshide S, Mogi M.	Long-term blood pressure lowering effect of renal denervation and its patient preference, salt intake, and stroke in Asia	Hypertens Res・2022	Others
21	Kario K, Hoshide S, Mogi M.	Digital Hypertension 2023: Concept, hypothesis, and new technology	Hypertens Res・2022	Others
22	Kario K, Hoshide S, Mogi M.	A recent advance in Renal denervation to clinical practice	Hypertens Res・2022	Others

23	Kario K, Hoshide S, Mogi M.	循環器内科	Uncontrolled hypertension: the greatest challenge and perspectives in Asia	Hypertens Res•2022	Others
24	Kario K, Ito S, Itoh H, et al.	循環器内科	Effect of esaxerenone on nocturnal blood pressure and natriuretic peptide in different dipping phenotypes	Hypertens Res•2022	Original Article
25	Kario K, Kagitani H, Hayashi S, et al.	循環器内科	A Japan nationwide web-based survey of patient preference for renal denervation for hypertension treatment	Hypertens Res•2022	Original Article
26	Kario K, Mogi M, Hoshide S.	循環器内科	New Editorial Hypertension Research: Looking back to 2021 and perspective to 2022	Hypertens Res•2022	Others
27	Kario K, Mogi M, Hoshide S.	循環器内科	Latest hypertension research to inform clinical practice in Asia	Hypertens Res•2022	Others
28	Kario K, Mogi M, Hoshide S.	循環器内科	Effect of COVID-19 pandemic on seasonal cardiovascular mortality in Japan, and Asian evidence	Hypertens Res•2022	Others
29	Kario K, Sakima A, Ohya Y.	循環器内科	STEP to estimate cardiovascular events by home blood pressure in the era of digital hypertension	Hypertens Res•2022	Others
30	Kario K, Tomitani N, Morimoto T, et al.	循環器内科	Relationship between blood pressure repeatedly measured by a wrist-cuff oscillometric wearable blood pressure monitoring device and left ventricular mass index in working hypertensive patients	Hypertens Res•2022	Original Article
31	Kario K, Wang JG, Chia YC, et al.	循環器内科	The HOPE Asia network 2022 up-date consensus statement on morning hypertension management	J Clin Hypertens (Greenwich)•2022	Review
32	Kario K, Wang TD.	循環器内科	Perspectives of renal denervation from hypertension to heart failure in Asia	Hypertens Res•2022	Others
33	Kario K, Williams B.	循環器内科	Angiotensin receptor-neprilysin inhibitors for hypertension-hemodynamic effects and relevance to hypertensive heart disease	Hypertens Res•2022	Review
34	Kario K, Yokoi Y, Okamura K, et al.	循環器内科	Catheter-based ultrasound renal denervation in patients with resistant hypertension: the randomized, controlled REQUIRE trial	Hypertens Res•2022	Original Article
35	Kario K.	循環器内科	Hypertension Research Awards for authors of outstanding papers in Hypertension Research	Hypertens Res•2022	Others
36	Kario K.	循環器内科	20 best reviewers of Hypertension Research 2021	Hypertens Res•2022	Others
37	Kario K.	循環器内科	Sleep and nocturnal hypertension: Genes, environment, and individual profiles	J Clin Hypertens (Greenwich)•2022	Others
38	Katsurada K, Kario K.	循環器内科	Neural afferents as potential targets to ameliorate FGF21-mediated sympathoexcitation	Hypertens Res•2022	Others
39	Katsurada K, Shinohara K, Aoki J, et al.	循環器内科	Renal denervation: basic and clinical evidence	Hypertens Res•2022	Review
40	Komori T, Hoshide S, Kanazawa H, et al.	循環器内科	The effect of mountaineering on the association between blood pressure and physical activity: A new multi-sensor ambulatory blood-pressure monitoring device. The Mount Fuji Study	J Clin Hypertens (Greenwich)•2022	Original Article
41	Kubota K, Imai Y, Oh I, et al.	循環器内科	Relationship between Dasatinib-induced Pulmonary Hypertension and Drug Dose	Intern Med•2022	Original Article
42	Mitama T, Kabutoya T, Kashiwara KK, et al.	循環器内科	Successful transvenous implantable cardioverter-defibrillator implantation supported by preceding 3D electro-anatomical mapping for a ventricular fibrillation survivor with surgically repaired congenitally corrected transposition of the great arteries: a case report	Eur Heart J Case Rep•2022	Case report
43	Mizuno H, Hoshide S, Nozue R, et al.	循環器内科	Associations of office brachial blood pressure, office central blood pressure, and home brachial blood pressure with arterial stiffness	Blood Press Monit•2022	Original Article
44	Narita K, Hoshide S, Ae R, Kario K.	循環器内科	Simple predictive score for nocturnal hypertension and masked nocturnal hypertension using home blood pressure monitoring in clinical practice	J Hypertens•2022	Original Article
45	Narita K, Hoshide S, Kario K.	循環器内科	Association of treatment-resistant hypertension defined by home blood pressure monitoring with cardiovascular outcome	Hypertens Res•2022	Original Article
46	Narita K, Hoshide S, Kario K.	循環器内科	Nighttime Home Blood Pressure Is Associated With the Cardiovascular Disease Events Risk in Treatment-Resistant Hypertension	Hypertension•2022	Original Article
47	Narita K, Hoshide S, Kario K.	循環器内科	Seasonal Variation in Day-by-Day Home Blood Pressure Variability and Effect on Cardiovascular Disease Incidence	Hypertension•2022	Original Article
48	Narita K, Hoshide S, Kario K.	循環器内科	Cardiovascular Disease Prevention in Patients With Atherosclerotic Renovascular Disease-Induced Resistant Hypertension: Further Considerations for 24-Hour Blood Pressure Profiles	J Am Heart Assoc•2022	Review
49	Narita K, Hoshide S, Kario K.	循環器内科	The role of blood pressure management in stroke prevention: current status and future prospects	Expert Rev Cardiovasc Ther•2022	Review
50	Narita K, Hoshide S, Kario K.	循環器内科	Changes in Blood Pressure Reactivity Against Physical Activity Evaluated by Multisensor-ABPM in Heart Failure Patients	JACC Asia•2022	Letter

51	Negishi K, Aizawa K, Shindo T, et al.	循環器内科	An Myh11 single lysine deletion causes aortic dissection by reducing aortic structural integrity and contractility	Sci Rep • 2022	Original Article
52	Oba Y, Funayama H, Kobayashi H, et al.	循環器内科	Use of the snare technique for crossing a severely calcified bicuspid valve and horizontal aorta	Anatol J Cardiol • 2022	Case report
53	Ogoyama Y, Kario K.	循環器内科	Patient preference and Long-term outcome of renal denervation for resistant hypertension	Hypertens Res • 2022	Others
54	Ogoyama Y, Tada K, Abe M, et al.	循環器内科	Effects of renal denervation on blood pressures in patients with hypertension: a systematic review and meta-analysis of randomized sham-controlled trials	Hypertens Res • 2022	Original Article
55	Sakata T, Harada K, Aoyama Y, et al.	循環器内科	Infective Endocarditis Revealed after Resolution of COVID-19 Infection	Intern Med • 2022	Case report
56	Suzuki D, Hoshide S, Kario K.	循環器内科	AGEs and renal sodium handling: association with hypertension	Hypertens Res • 2022	Others
57	Tomitani N, Kanegae H, Kario K.	循環器内科	Self-monitoring of psychological stress-induced blood pressure in daily life using a wearable watch-type oscillometric device in working individuals with hypertension	Hypertens Res • 2022	Original Article
58	Waki H, Hoshide S, Kario K.	循環器内科	Left ventricular mass as a predictor of cardiovascular events in the era of hypertension management using home blood pressure measurement: the J-HOP study	Hypertens Res • 2022	Original Article
59	Watanabe T, Hoshide S, Kario K.	循環器内科	Noninvasive method to validate the variability of blood pressure during arrhythmias	Hypertens Res • 2022	Others
60	Watanabe T, Hoshide S, Kario K.	循環器内科	New concept of pulse irregularity for the detection of atrial fibrillation during blood pressure measurement	Hypertens Res • 2022	Others
61	Watanabe T, Tomitani N, Yasui N, et al.	循環器内科	Validation of an ambulatory blood pressure monitoring device employing a novel method to detect atrial fibrillation	Hypertens Res • 2022	Original Article
62	Watanabe T, Yokoyama Y, Hachiya H, et al.	循環器内科	Electrogram characteristics at successful cryoablation sites in slow-fast atrioventricular nodal reentrant tachycardia	J Electrocardiol • 2022	Original Article
64	Kimura, Y., Ohzawa, H., Miyato, H., et al.	Jichi Medical University	MiR-29b may suppress peritoneal metastases through inhibition of the mesothelial-mesenchymal transition (MMT) of human peritoneal mesothelial cells.	Scientific Reports 12:205, 2022.	Original Article
65	Kumagai, Y., Futoh, Y., Miyato, H., et al.	Jichi Medical University	Effect of systemic or intraperitoneal administration of anti-PD-a antibody for peritoneal metastases from gastric cancer.	In Vivo 36:1126-1135, 2022.	Original Article
66	Lefor, AK., Heredia, Perez, SA., Shimizu, A., et al.	Jichi Medical University	Development and validation of a virtual reality simulator for Robot-assisted minimally invasive liver surgery training.	J. Clinical Med. 11(14) : 4145, 2022.	Review
67	Matsumoto, S., Kawahira, H., Oiwa, K., et al.	Jichi Medical University	Laparoscopic surgical skill evaluation with motion capture and eyeglass gaze cameras: A pilot study.	Asiann Journal of Endoscopic Surgery 15(3):619-628, 2022.	Original Article
68	Ohta, S., Tago, K., Kuchimaru, T., et al.	Jichi Medical University	The role of MerTK in promoting cell migration is enhanced by the oncogenic ras/IL-33 signaling axis.	FEBS J 289(7):1950-1967, 2022.	Original Article
69	Bando M, Homma S, Harigai M.	呼吸器内科	MPO-ANCA positive interstitial pneumonia: Current knowledge and future perspectives.	Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis. 38(4): e2021045, 2022.	Original Article
70	Mizushima Y, Shiihara J, Nomura M, et al.	呼吸器内科	Immunoglobulin G4-related Pleuritis Complicated with Minimal Change Disease.	Intern Med. 1; 61(5): 723-728, 2022.	Original Article
71	Nagai Y, Sata M, Ohta H, et al.	呼吸器内科	Herpes zoster in patients with lung cancer treated with PD-1/PD-L1 antibodies.	Immunotherapy. 4(15):1211-1217, 2022.	Original Article
72	Sawahata M, Johkoh T, Kawano T, et al.	呼吸器内科	Paradoxical Formation of a Pleuroparenchymal Fibroelastosis-like Lesion in the Chronic Course of Pulmonary Sarcoidosis.	Intern Med. 61(4): 523-526, 2022.	Original Article
73	Sawahata M, Yamaguchi T.	呼吸器内科	Imaging findings of fibrosis in pulmonary sarcoidosis.	Sarcoidosis Vasc Dis. 39: e2022018, 2022.	Original Article
65	Uchiyama A, Sata M, Yamasawa H, et al.	呼吸器内科	Bevacizumab for an erlotinib-resistant metastatic brain tumor contributed to long-term survival in advanced NSCLC: A case report.	Annals of Cancer Research and Therapy. 30(2):139-142, 2022.	Case report
66	井林賢志, 川合謙介	脳神経外科	てんかん等に対する迷走神経刺激療法	自律神経 59 (2), 212-220, 2022.	Original Article
67	井林賢志	脳神経外科	素顔のニューロサイエンティスト Jeremy D.W. Greenlee	Clinical Neuroscience 2022; 40:903.	Original Article
68	Akiyama, Y., Matsuoka, R., Masuda, T., et al.	内科学講座 腎臓内科学部門	Comparative impact of isolated ultrafiltration and hemodialysis on fluid distribution: a bioimpedance study.	Blood Purif. 2022; 51(6): 492-502	Original Article
69	Hishida, E., Kobayashi, T., Ono, Y., et al.	内科学講座 腎臓内科学部門	Tubulointerstitial nephritis in antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis with monoclonal gammopathy.	CEN Case Rep. 2022; 11(1): 36-42	Original Article
70	Kawabata, N., Okada, K., Ando, A., et al.	内科学講座 腎臓内科学部門	Comparison of the effects of frequent versus conventional nutritional interventions in patients with type 2 diabetes mellitus: A randomized, controlled trial.	J Diabetes Investig. 2022; 13(2): 271-279	Original Article

71	Kawabata, N., Okada, K., Ando, A., et al.	内科学講座 腎臓内科学部門	Dietitian-supported dietary intervention leads to favorable dietary changes in patients with type 2 diabetes: A randomized controlled trial.	J Diabetes Investig. 2022; 13(12): 1963-1970	Original Article
72	Masuda, T., Ohara, K., Vallon, V., et al.	内科学講座 腎臓内科学部門	SGLT2 inhibitor and loop diuretic induce different vasopressin and fluid homeostatic responses in nondiabetic rats.	Am J Physiol Renal Physiol. 2022; 323(3): F361-F369	Original Article
73	Mogi, M., Higashi, Y., Bokuda, K., et al.	内科学講座 腎臓内科学部門	Annual reports on hypertension research 2020.	Hypertens Res. 2022; 45(1): 15-31	Original Article
74	Mogi, M., Maruhashi, T., Higashi, Y., et al.	内科学講座 腎臓内科学部門	Update on hypertension research in 2021.	Hypertens Res. 2022; 45(8): 1276-1297	Original Article
75	Nagayama, I., Maeshima, A., Nagata, D.	内科学講座 腎臓内科学部門	Urinary activin a: a novel biomarker for human acute kidney injury.	Diagnostics (Basel). 2022; 12(3): 661	Original Article
76	Kinoshita Y, Katano S, Nishida S, Shimizu T, Fujimura T, Kume H, Iwami D	腎臓外科	Creatinine reduction ratio on postoperative day 2 predicts long-term outcomes after living donor	Int J Urol. 2022; 29(2): 114-120	Original Article
77	Kinoshita Y, Shirakawa K, Sano M, Yokoo T, Kume H, Kobayashi E.	腎臓外科	Development of a novel porcine ischemia/reperfusion model inducing different ischemia times	Transl Androl Urol. 2022; 11(4): 430-438	Original Article
78	Honne K, Bando M, Mieno MN, et al.	アレルギー・リウマチ科	Bronchiectasis is as crucial as interstitial lung disease in the severe pneumonia that occurs	Rheumatol Int. 2022 Aug; 42: 1341-6	Original Article
79	Sakashita E, Nagatani K, Endo H, et al.	アレルギー・リウマチ科	Serum level of IFN β distinguishes early from late relapses after biologics withdrawal in	Sci Rep. 2022 Oct; 12: 16547	Original Article
80	Kanzawa J, Matsuki M, Kano S, Nakamata A, Nakata W, Furukawa R, Baba K, Ono S, Mori H.	画像診断部	Massive true thymic hyperplasia with osseous metaplasia.	Radiol Case Rep. 2023;18(6):2307-2310.	Case report
81	Ito N, Fujii H, Kuroda R, Matsuki M, Mori H.	画像診断部	Intradural Chordoma Mimicking an Epidermoid Cyst on Imaging.	Cureus. 2023;15(6):e40610.	Case report
82	Takahashi S, Endo M, Nagatomo T, Onaga R, Yamaguchi H, Yamamoto R, Fukuda Y, Ogawa K, Nakamura M, Okada K, Akahane K, Kawahara M, Nishino H, Kanazawa T, Mori H, Shirai K	画像診断部	Radiotherapy for Conversion Surgery.	Case Rep Oncol. 2023;16(1):218-226.	Case report
83	Kikuchi T, Hanaoka S, Nakao T, Nomura Y, Yoshikawa T, Alam A, Mori H, Hayashi N	画像診断部	Significance of FDG-PET standardized uptake values in predicting thyroid disease.	Eur Thyroid J. 2023;12(1):e220165.	Original Article
84	Tanaka Y, Matsuki M, Furukawa R, Nakata W, Sakurai Y, Ajihara S, Kawano A, Mori H.	画像診断部	Imaging of extrapontine myelinolysis preceding central pontine myelinolysis in a case of ornithine transcarbamylase deficiency with hyperammonaemia and hypokalaemia.	BMJ Neurol Open. 2022;4(2):e000354.	Case report
85	Kano S, Matsuki M, Furukawa R, Nakata W, Oguma H, Gomi A, Mori H.	画像診断部	A case of germinoma located in the fornix inducing transsynaptic atrophy of the Papez circuit.	Radiol Case Rep. 2022;18(1):405-409.	Case report
86	Takahashi S, Endo M, Fukuda Y, Ogawa K, Nakamura M, Okada K, Kawahara M, Akahane K, Nagatomo T, Onaga R, Nishino H, Mori H, Shirai K.	画像診断部	Nintedanib-Induced Delayed Mucosal Healing after Adjuvant Radiation in a Case of Oropharyngeal Carcinoma.	Case Rep Oncol. 2022;15(2):776-782.	Case report
87	Yamamoto S, Kikuchi T, Fujii H, Otake Y, Matsuki M, Narumi R, Endo M, Fujiwara H, Mori H.	画像診断部	A Case of Ruptured Decidualized Ovarian Endometrioma: Usefulness of Serial MRI for Determining Adequate	Case Rep Obstet Gynecol. 2022;2022:3234784.	Case report
88	Fukuda Y, Takahashi S, Nakamura M, Endo M, Ogawa K, Kawahara M, Akahane K, Ito S, Kanda Y, Mori H, Shirai K.	画像診断部	Radiation Myelopathy Caused by Palliative Radiotherapy and Intrathecal Methotrexate.	Case Rep Oncol. 2022;15(2):674-681.	Case report
89	Morita A, Nishikawa K, Yamada F et al.	皮膚科	Safety, efficacy, and drug survival of the infliximab biosimilar CT-P13 in post-marketing	The Journal of Dermatology49(10):957-969,2022	Original Article
90	Tsuda H, Tominaga SI, Ohtsuki M et al.	皮膚科	Nuclear IL-33 regulates cytokinesis and cell motility in normal human epidermal keratinocytes	Journal of dermatological science 105(2):113-120,2022.	Original Article
91	Adachi A, Honda T, Egawa G et al.	皮膚科	Estradiol suppresses psoriatic inflammation in mice by regulating neutrophil and macrophage	The Journal of allergy and clinical immunology150(4):909-919,2022.	Original Article
92	Toyama Y, Kamiya K, Maekawa T, et al.	皮膚科	Pyoderma gangrenosum following vaccination against coronavirus disease-2019: a case report	International Journal of Dermatology 61(7):905-906,2022□	Case report
93	Kado S., Kamiya K., Iwabuchi S et al.	皮膚科	Unilateral lymphadenopathy associated with COVID-19 vaccination	Journal of Cutaneous Immunology and Allergy.5:100-101,2022□	Others
94	Kado S., Kamiya K., Maekawa T et al.	皮膚科	Acral hyperpigmented macule suspicious of malignant melanoma	Journal of Cutaneous Immunology and Allergy 5:114-115,2022.	Others

95	Kamiya K, Saeki H, Tokura Y et al.	皮膚科	Proactive versus Rank-Down Topical Corticosteroid Therapy for Maintenance of Remission in	Journal of Clinical Medicine11(21):6477,022□	Others
96	Yamamoto H, Kamiya K, Okada H, et al.	皮膚科	A case of acrodermatitis continua of Hallopeau evolving into generalized pustular psoriasis	International Journal of Dermatology62(2):269-270,2022□	Others
97	Sanada Y	移植外科	Hepatolithiasis After Living Donor Liver Transplantation in Pediatric Patients: Mechanism,	Transpl Int. 2022	Original Article
98	Sanada Y	移植外科	Surgical approach to supradiaphragmatic inferior vena cava in patients with metallic stent in the hepatic vein during repeat liver transplantation.	Pediatr Transplant. 2022	Original Article
99	Sanada Y	移植外科	Prevalence and outcomes of patients with sinusoidal obstruction syndrome after liver transplantation	Transpl Immunol. 2022	Original Article
100	Sanada Y	移植外科	Long-term outcomes in pediatric patients who underwent living donor liver transplantation for biliary atresia.	Surgery. 2022	Original Article
101	Saito N, Shirado T, Funabashi-Eto H, et al.	自治医科大学 形成外科	Purification and characterization of human adipose-resident microvascular endothelial progenitor cells.	Sci Rep. 2022;12:1775.	Original Article
102	Zhang B, Wu Y, Mori M, et al.	自治医科大学 形成外科	Adipose-Derived Stem Cell Conditioned Medium and Wound Healing: A Systematic Review.	Tissue Eng Part B Rev. 2022;28:830-847.	Review
103	Toyohara Y, Mito N, Nakagawa S, et al.	自治医科大学 形成外科	Asystole Due to Oculocardiac Reflex during Surgical Repair of an Orbital Blowout Fracture.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2022;10:e4544.	Original Article
104	Mori M, Saito N, Shirado T, et al.	自治医科大学 形成外科	Human Adipose-Derived Endothelial Progenitor Cells Accelerate Epithelialization of Radiation Ulcer in Nude Mice.	Plastic and Reconstructive Surgery. 2022 (in press)	Original Article
105	Asahi R, Sunaga A, Shirado T,	自治医科大学 形成外科	Irradiation affects adipose-derived stem cells and wound healing depending on radiation dose and frequency.	Plastic and Reconstructive Surgery. 2022 (accepted)	Original Article
106	Ogoyama M, Takahashi H, Suzuki H	産婦人科	Non-Coding RNAs and Prediction of Preeclampsia in the First Trimester of Pregnancy.	Cells. 2022;11:2428.	Review
107	Suzuki H	産婦人科	Maternal and perinatal outcomes according to blood pressure levels for prehypertension: A review and meta-analysis.	Hypertens Res in Pregnancy. 2022;10:29-39	Review
108	Hirashima C	産婦人科	Prevalence of chronic hypertension and white coat hypertension in women presenting with at least one hypertension level on two to three consecutive measurements in a clinical setting at <20 weeks of gestation (JP-WCHI study): A multicenter prospective cohort study.	Hypertension Research in Pregnancy. 2022 Sep 30. doi.org/10.14390/jssh.p. Ahead of print.	Original Article
109	Horie K, Takahashi K	産婦人科	Uterine contraction may not be an independent risk factor for spontaneous preterm birth <36 weeks in women with cervical shortening.	Int J Gynaecol Obstet. 2022 Nov 14. doi:10.1002/ijgo.14579. ahead of print.	Original Article
110	Ohkuchi A	産婦人科	Tight control of blood pressure in pregnant women with nonsevere hypertension: expectations for decreasing adverse maternal and fetal pregnancy outcomes.	Hypertens Res. 2022;45:926-928.	Original Article
111	Ohkuchi A, Suzuki H	産婦人科	Exponential increase of the gestational-age-specific incidence of preeclampsia onset (COPE study): a multicenter retrospective cohort study in women with maternal check-ups at <20 weeks of gestation in Japan.	Hypertens Res. 2022;45:1679-1689.	Original Article
112	Ogoyama M, Takahashi H, Baba Y	産婦人科	Bleeding-related outcomes of low-risk total placenta previa are equivalent to those of partial/marginal placenta previa.	Taiwan J Obstet Gynecol. 2022;61:447-452	Original Article
113	Ohashi M, Takahashi H, Baba Y	産婦人科	Retained products of conception in placenta previa without placenta accreta spectrum: who requires transarterial embolization and/or hysterectomy?	Clin Exp Obstet Gynecol. 2022;49:28	Original Article
114	Takahashi H, Baba Y, Usui R	産婦人科	Hemostatic effect of combined procedures for placenta previa: cervix-holding, intrauterine balloon, and uterine compression suture.	J Matern Fetal Neonatal Med. 2022;35:8710-8716	Original Article
115	Takahashi H	産婦人科	Retained products of conception (RPOC) following delivery without placenta previa: Which patients with RPOC show postpartum hemorrhage?	Placenta. 2022;124:12-17.	Original Article
116	Tamura K	産婦人科	Neutrophil extracellular traps (NETs) reduce the diffusion of doxorubicin which may attenuate its ability to induce apoptosis of ovarian cancer cells.	Heliyon. 2022;8: e09730.	Original Article
117	Wada Y, Takahashi H,	産婦人科	Adhesion barriers and intraperitoneal or uterine infections after cesarean section: A retrospective cohort study	Surgery. 2022;172:1722-1727.	Original Article
118	Ogoyama M, Takahashi H, Kagawa K	産婦人科	Disseminated intravascular coagulation complicated by amniotic band syndrome associated with deceased fetal umbilical cord following fetoscopic laser surgery.	J Obstet Gynaecol Res. 2022;48:1989-1996.	Case report

119	Shigenobu Y, Nagayama S, Manaka Y,	産婦人科	Pregnancy in a patient with caudal regression syndrome following continent bladder reconstruction.	J Obstet Gynaecol Res. 2022;48:2615-2619.	Case report
120	Izumi R, Takahashi H	産婦人科	Adducted thumb may not be mandatory for prenatal diagnosis of X-linked hydrocephalus in early second trimester.	Taiwan J Obstet Gynecol. 2022;61:353-355.	Case report
121	Ogoyama M, Takahashi H	産婦人科	Response letter to "Bleeding-related outcomes of low-risk total placenta previa are equivalent to those of partial/marginal placenta previa"	Taiwan J Obstet Gynecol. 2022;61:1095	Case report
122	Takahashi Y, Matsubara S, Tamura K	産婦人科	Ovarian vein thrombosis after bilateral adnexectomy in a symptomatic patient with concomitant pulmonary embolism: A case report.	Taiwan J Obstet Gynecol. 2022. ahead of print.	Case report
123	Takahashi S, Takei Y, Tamura K	産婦人科	Response to and toxicity of weekly paclitaxel and carboplatin in stage IIIC-IV ovarian cancer patients with a poor general condition.	Mol Clin Oncol. 2022;16:14.	Case report
124	Umihira S, Koyanagi T, Tamura K	産婦人科	Durable response after the discontinuation of pembrolizumab treatment due to an adverse event in a patient with advanced endometrial cancer: A case report.	Exp Ther Med. 2022;23:409	Case report
125	Yoshihira T, Takei Y, Manaka Y	産婦人科	A patient with a mucinous borderline ovarian tumor after fertility-sparing surgery in whom puncture fluid cytology on oocyte retrieval led to a diagnosis of recurrence.	J Obstet Gynaecol Res. 2022;48:	Case report
126	Arai Y, Ogoyama M, Yamamoto H	産婦人科	Three-dimensional visualization using a rubber balloon as postpartum feedback for vessels traversing vasa previa.	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2022;279:191-192.	Others
127	Matsubara S.	産婦人科	Aortic balloon occlusion at surgery for placenta accreta spectrum: Is the occlusion at the level of the renal artery necessary?	J Matern Fetal Neonat Med. 2022;35:8407-8408.	Letter
128	Matsubara S.	産婦人科	Filling the bladder technique (Matsubara) at cesarean hysterectomy for placenta accreta spectrum disorders: Not solely to avoid bladder injury.	J Matern Fetal Neonat Med. 2022;35:5496-5497.	Letter
129	Matsubara S.	産婦人科	Family-centered cesarean section for placenta accreta spectrum: Questions and an addition.	Rev Bras Ginecol Obstet. 2022. ahead of print.	Letter
130	Matsubara S, Takahashi H.	産婦人科	Total vs. supracervical hysterectomy for placenta accreta spectrum disorders	J Matern Fetal Neonatal Med. 2022;35:5504-5505.	Letter
131	Matsubara S.	産婦人科	Acute abdominal pain with abdominal mass in an adolescent girl.	BMJ. 2022;379:e068444.	Letter
132	Matsubara S.	産婦人科	Internal manual aortic compression: Important considerations.	Am J Obstet Gynecol. 2022 Oct 28. doi: 10.1016/j.ajog.2022.10.023. ahead of print.	Letter
133	Matsubara S.	産婦人科	Avoiding intrathecal injection of tranexamic acid at caesarean section: Some important additions.	BJOG. 2022. ahead of print	Letter
134	Matsubara S.	産婦人科	Looking too much at the dark side of paper writing.	BJOG. 2022;129:511-512.	Letter
135	Matsubara S.	産婦人科	Aortic balloon occlusion for placenta accreta spectrum: The higher, the better?	Arch Gynecol Obstet. 2022 Jul 11. doi. org/10.1007/s00404-022-06681-3. ahead of print	Letter
136	Matsubara S.	産婦人科	Previous prolonged cesarean predicts poor outcome in next cesarean: A "story" beyond clinical utility.	Arch Gynecol Obstet. 2022 Aug 5. doi.org/10.1007/s00404-022-06643-9. ahead of print.	Letter
137	Matsubara S.	産婦人科	An intrauterine balloon for puerperal uterine inversion is not only for hemostasis but also for prophylaxis against reinversion.	Int J Surg Case Rep. 2022;97:107397.	Letter
138	Takahashi H, Matsubara S.	産婦人科	Placenta accreta spectrum without praevia: Difficulties in its diagnosis and treatment.	Aust N Z J Obstet Gynaecol. 2022;62:E15.	Letter
139	Matsubara S.	産婦人科	Intrauterine hemostatic balloon: Two simple procedures to hold the balloon intrauterine.	Int J Gynaecol Obstet. 2022;159:612.	Letter
140	Matsubara S.	産婦人科	Pereira uterine compression suture: Visiting old, learn new.	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2022;277:122-123	Letter
141	Matsubara S.	産婦人科	Terminology for abnormally invasive placenta: Still confusing. Int J Obstet Anesth.	2022 Oct 20. doi:10.1016/j.ijoa.2022.103603. ahead of print.	Letter
142	Matsubara S, Takahashi H.	産婦人科	The cervical clamping for postpartum haemorrhage: some concerns.	J Obstet Gynaecol. 2022;42:1605.	Letter

143	Matsubara S. Takei Y.	産婦人科	Aorta clamp for placenta accreta spectrum: No-dissection or local dissection?	Int J Gynaecol Obstet. 2022;158:491-491.	Letter
144	Matsubara S. Takei Y.	産婦人科	Perineal suture to maintain pessary for pelvic organ prolapse: Some questions.	Arch Gynecol Obstet 2022 Dec 30. doi:10.1007/s00404-022-06904-7. ahead of print.	Letter
145	Matsubara S.	産婦人科	High stress of gynecologic surgeons encountering surgical complications: Does it hold true for doctors of other specialties?	Int J Gynecol Obstet. 2022;160:356-357.	Letter
146	Matsubara S.	産婦人科	Intentional cystotomy in surgery for placenta percreta with bladder invasion: Not only for hysterectomy but also for uterus-preserving surgery.	Acta Obstet Gynecol Scand. 2022 Nov 30. doi:10.1111/aogs.14484. ahead of print.	Letter
147	Noguchi T,Sugiura Y,Dihl A et al.	歯科口腔外科	Evaluation of patients with oral squamous cell carcinoma treated by radical irradiation with mold radiotherapy using a customized device: a retrospective clinical study.	J Med Case Rep 16: 178, 2022.	Case report
148	Aoyagi, J., Kanai, T., Ito, T.他	小児科学	Appropriate Timing of Kidney Biopsy to Detect Cyclosporine-Associated Nephrotoxicity in Idiopathic Nephrotic Syndrome in Children with C2 Monitoring.	Indian Journal of Pediatrics: 89(10): 1058, 2022. doi 10.1007/s12098-022-04351-5. Epub 30 Aug 2022.	Original Article
149	Hirai, M., Sakurada, T., Ikeda, T.他	小児科学	Developmental changes to the neural mechanisms underlying level-2 visual perspective-taking: A functional near-infrared spectroscopy study.	Developmental Psychobiology 64: e22229, 2022	Original Article
150	Horiguchi, A., Arakawa, Y., Noguchi, J.他	小児科学	Donor-origin anaplastic lymphoma kinase driver-positive inflammatory myofibroblastic tumor after umbilical cord blood transplantation in pediatric acute lymphoblastic leukemia.	Pediatr Blood Cancer 69: e29708, 2022.	Letter
151	Ikeda, T., Kawahara, Y., Miyauchi, A.他	小児科学	Low donor chimerism may be sufficient to prevent demyelination in adrenoleukodystrophy.	JIMD Rep, 63(1), 19-24, 2022.	Case report
152	Kanai, T., Ito, T., Aoyagi, J.他	小児科学	Membranous nephropathy without vacuolated podocytes in Fabry disease treated with agalsidase-β and carbamazepine: A case report.	Medicine (Baltimore). 18;101(7): e28830, 2022.	Case report
153	Kawahara, Y., Ishimaru, S., Tanaka, J.他	小児科学	Impact of KIR-ligand mismatch on pediatric T-cell acute lymphoblastic leukemia in unrelated cord blood transplantation.	Transplant Cell Ther 28: 598.e1-598.e8, 2022.	Original Article
154	Kobayashi, M., Suzuki, Y., Matsunaga, A.他	小児科学	A Japanese patient with neonatal biotin-responsive basal ganglia disease.	Hum Genome Var 29;9(1):35, 2022.	Case report
155	Kojima, K., Wada, T., Shimbo, H.他	小児科学	The ATRX splicing variant c.21-1G>A is asymptomatic.	Hum Genome Var 9:33, 2022	Case report
156	Kono, Y., Yonemoto, N., Nakanishi, H.他	小児科学	A Retrospective Cohort Study on Mortality and Neurodevelopmental Outcomes of Preterm Very Low Birth Weight Infants Born to Mothers with Hypertensive Disorders of Pregnancy.	Neonatal Research Network Japan. Am J Perinatol 39:1456 - 1477, 2022.	Original Article
157	Kumagai, H., Shimizu, T., Iwama, I.他	小児科学	A consensus statement on health-care transition for childhood-onset inflammatory bowel disease patients.	Pediatr Int 64(1); e15241, 2022.	Others
158	Masuda, T., Osaka, H., Tsuchida, N.他	小児科学	Long-term course of early onset developmental and epileptic encephalopathy associated with 2q24.3 microduplication.	Epilepsy Behav Rep 19.: 100547, 2022.	Case report
159	Matano, M., Monden, Y., Kurane, K.他	小児科学	Potential of internet-delivered PCIT for ASD in the COVID-19 era: A pilot study.	Pediatrics international: official journal of the Japan Pediatric Society, 64(1), e14699. https://doi.org/10.1111/ped.14699, 2022	Original Article
160	Matsubara, D., Chang, J., Kauffman, HL.他	小児科学	Longitudinal Assessment of Cardiac Outcomes of Multisystem Inflammatory Syndrome in Children Associated with COVID-19 Infections.	J Am Heart Assoc 19: e023251, 2022.	Original Article
161	Matsubara, D., Tamura, D., Kasuya, Y.他	小児科学	Anterior Scleritis Presenting as a Primary Ocular Manifestation in Multisystem Inflammatory Syndrome in Children With COVID-19.	Front Pediatr.; 10:943652, 2022.	Case report

162	Matsumoto, A., Tsuda, H., Furui, S.他	小児科学	A case of congenital fiber-type disproportion syndrome presenting dilated cardiomyopathy with ACTA1 mutation.	Mol Genet Genomic Med.: e2008, 2022. doi: 10.1002/mgg3.2008. PMID: 35757965.	Case report
163	Morita, Y., Matsubara, D., Seki, M.他	小児科学	Acute Perimyocarditis in an Adolescent Japanese Male after a Booster Dose of the BNT162b2 COVID-19 Vaccine.	Tohoku J Exp Med. 25;258(3):177-182,2022.	Case report
164	Muramatsu, K., Muramatsu, SI.	小児科学	Adeno-associated virus vector-based gene therapies for pediatric diseases.	Pediatr Neonatol S1875-9572(22)00213-3, 2022. doi: 10.1016/j.pedneo.2022.09.004. PMID: 36266189.	Review
165	Seki, M., Minami, T.	小児科学	Kawasaki Disease: Pathology, Risks, and Management.	Vasc Health Risk Manag 18:407-416, 2022.	Review
166	Seki, M., Minami, T., Suzuki, S.他	小児科学	Continuous cyclosporine a infusion in patients with severe Kawasaki disease.	Pediatr Int 64(1): e15280, 2022.	Original Article
167	Shimozawa, H., Sato, T., Osaka, H.他	小児科学	A Case of Infantile Mitochondrial Cardiomyopathy Treated with a Combination of Low-Dose Propranolol and Cibenzoline for Left Ventricular Outflow Tract Stenosis.	Int Heart J 63:970-977, 2022.	Case report
168	Suzuki, S., Seki, M., Kataoka, K.他	小児科学	Successful Management in an Infant Patient of PHACE Syndrome with a Complicated Aortic Arch Anomaly.	Case Rep Pediatr. 2022:5947951, 2022.	Case report
169	Tajima, T.	小児科学	Genetic causes of central precocious puberty.	Clin Pediatr Endocrinol 31:101-109, 2022.	Review
170	Tajima, T.	小児科学	Newborn Screening in Japan-2021	Int J Neonatal Screen.;8:3, 2022.	Review
171	Tajima, T., Hasegawa, Y.	小児科学	Treatment of X-Linked Hypophosphatemia in Children.	Endocrines 3:522-529, 2022.	Review
172	Tajima, T., Oguma, M.	小児科学	A novel nonsense variant (p. Arg1293Ter) of the immunoglobulin superfamily 1 (IGSF1) associated with congenital hypogonadotropic hypogonadism and central hypothyroidism.	Clin Pediatr Endocrinol 31:98-100, 2022.	Case report
173	Tamura, D., Yamagishi, H., Morisawa, Y.他	小児科学	Diagnostic accuracy of a novel SARS CoV-2 rapid antigen test and usefulness of specimens collected from the anterior nasal cavity.	Int J Infect Dis 124:199-205, 2022.	Original Article
174	Tsukida, K., Muramatsu, SI., Osaka, H.他	小児科学	WDR45 variants cause ferrous iron loss due to impaired ferritinophagy associated with NCOA4 and WIP4 reduction.	Brain Commun 4(6), fcac304,2022. https://doi.org/10.1093/braincomms/fcac304. PMID: 36751498.	Original Article
175	Watanabe, C., Ando, Y., Kumagai, H.他	小児科学	A Pediatric Case of Wheat-Dependent, Exercise-Induced Anaphylaxis Solely Associated with High-Molecular-Weight Glutenin.	Indian J Pediatr. 89(9):937, 2022. doi: 10.1007/s12098-022-04319-5.	Case report
176	Yamagishi, H., Osaka, H., Monden, Y.他	小児科学	Prognostic factors, psychomotor development and life of trisomy 13 patients.	Pediatr Int 64(1): e15369, 2022. doi: 10.1111/ped.15369.	Original Article
177	Yokoyama, K., Yano, T., Kumagai, H.他	小児科学	Reduction of acute gastric volvulus in a 3-year-old using a balloon-attached endoscope combined with gel immersion endoscopy.	Clin J Gastroenterol 15(1):95-100, 2022. doi: 10.1007/s12328-021-01566-5.	Case report
178	Hashiguchi, M., Monden, Y., Nozaki, Y.他	小児科学	A TUBB4A Met363Thr variant in pediatric hypomyelination without atrophy of the basal ganglia.	Hum Genome Var 9(1):. 19,2022. https://doi.org/10.1038/s41439-022-00198-6	Case report
179	Yamane, H., Seki, M., Ikeda, T.他	小児科学	An Adolescent Patient with Sick Sinus Syndrome Complicated by Hypothyroidism Carrying an SCN5A Variant.	Int Heart J 63(3):627-632, 2022. doi: 10.1536/ihj.21-722. PMID: 35650162.	Case report

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	著頭者名の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1				Original Article
2				Case report
3				
～				

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 1. 自治医科大学における人を対象とする生命科学・医学系研究に関する規程 2. 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理審査委員会手順書	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年14回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 1. 学校法人自治医科大学利益相反委員会内規 2. 学校法人自治医科大学利益相反マネジメント・ポリシー 3. 学校法人自治医科大学における人を対象とする医学系研究の実施に係る利益相反ポリシー 4. 学校法人自治医科大学における臨床研究等に係る利益相反についての手順書	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容	

令和4年7月5日（火）に自治医科大学研究倫理講習会として集合形式で開催し、後日、totaraを用いてweb形式の動画視聴の講習を実施した。

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- ・新専門医制度の19の基本領域すべてにおいて専門研修プログラムを整備しており、全領域で基本領域の専門医を取得することができる。
- ・サブスペシャリティ領域について各領域で専門研修プログラムを整備しており、多種のサブスペシャリティ研修と専門医の取得が可能である。
- ・基本領域、サブスペシャリティ領域の円滑な研修のため、卒後臨床研修センターを中心に院内に情報共有・通知を行っている。
- ・各基本領域において初期研修医から後期研修医を主な対象とし、最新の医学的知識習得を目的としたセミナーを定期的に開催している。
- ・メディカルシミュレーションセンターを併設しており、模型を用いた内視鏡、超音波診断、外科手術の臨床手技習得のためのトレーニングを24時間行うことが可能である。
- ・併設する附属図書館より最新の文献収集、電子教科書の利用などを24時間行うことができる。
- ・主要な派遣先の病院において、一定の資格（経験年数、業績、専門医・指導医の有無）を有する指導医を臨床教授に任用し（地域臨床教育センター）、附属病院と連携しながら後期研修の指導を行っている。
- ・社会人大学院制度により専門研修と並行し研究を行い医学博士を取得することが可能である。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	191人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
松村 正巳	内科（総合診療内科）	科長	37年	
里中 弘志	内科（腎臓）	科長	26年	
神田 善伸	内科（血液）	科長	32年	
矢作 直也	内科（内分泌代謝）	科長	29年	
山口 博紀	内科（臨床腫瘍）	科長	30年	
畠山 修司	内科（感染症）	科長	27年	
丹波 嘉一郎	内科（緩和ケア）	科長	39年	
荻尾 七臣	循環器科	科長	36年	
山本 博徳	消化器科	科長	39年	

前門戸 任	呼吸器科	科長	34年	
藤本 茂	神経内科	科長	29年	
佐藤 浩二郎	アレルギー科	科長	28年	
佐藤 浩二郎	リウマチ科	科長	28年	
小宮根 真弓	皮膚科	科長	35年	
森 壘	画像診断科	科長	26年	
白井 克幸	放射線治療科	科長	20年	
松木 充	小児画像診断部	科長	32年	
須田 史朗	精神科	科長	27年	
柳橋 達彦	精神科 (子どもの心の診療科)	科長	21年	
田島 敏広	小児科	科長	37年	
細谷 好則	外科 (消化器)	科長	33年	
岩見 大基	外科 (腎臓)	科長	23年	
佐久間 康成	外科 (移植)	科長	31年	
佐久間 康成	外科 (小児移植)	科長	31年	
北山 丈二	外科 (乳腺)	科長	39年	
川人 宏次	心臓血管外科	科長	37年	
岡 徳彦	心臓血管外科 (小児・先天性心臓血管外科)	科長	26年	
坪地 宏嘉	呼吸器外科	科長	28年	
吉村 浩太郎	形成外科	科長	38年	
吉村 浩太郎	形成外科 (小児形成外科)	科長	38年	
吉村 浩太郎	美容外科	科長	38年	
照井 慶太	小児外科	科長	25年	

國井 尚人	脳神経外科	科長	20年	
五味 玲	脳神経外科 (小児脳神経外科)	科長	39年	
竹下 克志	整形外科	科長	36年	
渡邊 英明	整形外科 (小児整形外科)	科長	30年	
藤原 寛行	産科	科長	33年	
藤原 寛行	婦人科	科長	33年	
藤村 哲也	泌尿器科	科長	28年	
守屋 仁彦	泌尿器科 (小児泌尿器科)	科長	32年	
伊藤 真人	耳鼻咽喉科	科長	36年	
伊藤 真人	耳鼻咽喉科 (小児耳鼻咽喉科)	科長	36年	
川島 秀俊	眼科	科長	40年	
竹内 護	麻酔科	科長	38年	
竹内 護	小児手術・集中治療部	科長	38年	
間藤 卓	救急科	科長	36年	
森田 光哉	リハビリテーション科	科長	37年	
渡邊 英明	小児リハビリテーション部	科長	30年	
福嶋 敬宜	病理診断科	科長	33年	
野口 忠秀	歯科口腔外科	科長	33年	
野口 忠秀	歯科口腔外科 (小児歯科口腔外科)	科長	33年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
回答なし
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
回答なし
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
回答なし

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 川合 謙介
管理担当者氏名	病院事務部長 平寄 正俊

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	項 規則第二十二條の三第二項に掲げる事	病院日誌	平成18年度よりカルテによる運用を行っている。電子カルテ導入前の記録については、診療情報管理室で管理している。診療録等の持ち出しについては、原則禁止としている。やむを得ず持ち出す場合は、別途規程に定めている。（『自治医科大学附属病院の患者等の個人情報保護に関する規程』、『自治医科大学附属病院情報システム利用規程』等）	
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
病院の管理及び運営に関する諸記録	三 規則第二十二條の三第 三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	掲げる事項	規則第一條の十一第一項に	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療の質向上・安全推進センター
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療の質向上・安全推進センター
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療の質向上・安全推進センター
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療の質向上・安全推進センター	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
	第二条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第三項	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第四項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	第五項	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
	第六項	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第七項	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第八項	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第九項	医療機器安全管理責任者の配置状況	医療の質向上・安全推進センター
	第十項	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療の質向上・安全推進センター
	第十一项	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	用度課及び臨床工学部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療の質向上・安全推進センター

PCまたは紙媒体で保管

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課及び医療の質向上・安全推進センター
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療の質向上・安全推進センター
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療の質向上・安全推進センター
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部
		医療安全管理部門の設置状況	医療の質向上・安全推進センター
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療の質向上・安全推進センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療の質向上・安全推進センター
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療の質向上・安全推進センター
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療の質向上・安全推進センター
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療の質向上・安全推進センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療の質向上・安全推進センター
		職員研修の実施状況	医療の質向上・安全推進センター、感染制御部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課
管理者が有する権限に関する状況	総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

PCまたは紙媒体で保管

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長	川合 謙介
閲覧担当者氏名	病院事務部長	平寄 正俊
閲覧の求めに応じる場所	病院会議室	
閲覧の手続の概要		
・申請内容により個別対応		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	件
	歯科医師	延	件
	国	延	件
	地方公共団体	延	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理に関する基本的な考え方 ・ 医療の質向上・安全推進委員その他院内組織に関する基本的事項 ・ 医療安全管理のための講習会・研修会に関する基本方針 ・ インシデント報告に関する基本方針 ・ 重大事故発生時の対応 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療事故及びインシデントの予防対策の検討及び推進に関すること ・ 発生した医療事故等の対応方法に関すること ・ 医療安全管理指針及びリスクマネジメントマニュアルの策定及び変更に関すること ・ 医療安全管理に関する職員研修の計画の策定、実施及び評価に関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年19回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員対象医療安全講習会 ・ 新入職者対象医療安全講習会 ・ 研修医インシデントレポートについての演習 ・ 研修医対象ポンプ・危険薬研修 ・ 多職種合同医療安全研修会 ・ 新人看護師対象医療安全研修会 ・ 中心静脈カテーテル挿入技術認定研修会 ・ 研修医対象医療安全セミナー ・ 心肺蘇生研修 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会を開催（改善策などを周知教育する） ・ e-ラーニングにて確認のテストを実施 ・ ワーキンググループで検討（JT-MAC、CV、休薬、IC、気管切開） ・ 部会で検討（医薬品安全管理・医療機器安全管理） 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： 院内感染対策に関する基本的な考え方 院内感染対策に関連する委員会に関する基本的事項 院内感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針 感染症の発生状況の報告とそれに対する対応に関する基本方針 患者者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容： 病院長が積極的に感染対策に関わり、院内感染対策委員会、ICT、感染制御部が中心となって、すべての職員に対して組織的な対応と教育・啓発活動をする。 院内感染対策委員会で検討した事項は病院長に諮問した上で日常業務化する。 感染制御部長はICTおよび感染制御部を統括する。 感染管理認定看護師は感染管理リンクスタッフ勉強会を主催、統括する。 ※附属病院COVID-19対策本部会議として病院執行部メンバー、事務部門、全診療科長が参加するWeb会議を月1～2回開催し、全病院的な情報共有を図った。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年28回
<p>・ 研修の内容（すべて）： 全職員対象医療安全・感染対策合同講習会：年2回【動画配信・e-learning受講】 全職員対象感染対策講習会：年2回【集合型：1回/動画配信・e-learning受講：1回】 新入職員対象オリエンテーション（全職種向け：年1回/看護師向け：年3回） 新入臨床研修医向け実習（事前演習有）：1回 中途採用者・復職者対象オリエンテーション【動画配信・e-learning受講（常時）】 看護補助員向け中途採用者研修：依頼に基づき随時実施：13回 リンクスタッフ（所属部署の感染管理担当者）勉強会：年4回 部署別個別研修会：依頼に基づき随時実施：2回（臨床検査部/おおるり分教室） 清掃委託業者・従事者向けの感染防止対策研修 （栃木ビル商事・大和興産・（株）ダスキンヘルスケアあて、研修資料配布） ※新型コロナウイルス感染症の流行により、「totaraシステム」を利用した「動画配信・e-learning受講」による研修を多用した。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 感染制御部に細菌検査システムが常時設置されており、検査データ（微生物データ）を毎営業日確認し、状況を把握している。 すべての職員に配布した感染防止対策マニュアル（ポケット版）にアウトブレイク対応の手順が明記されている。また、新たに「アウトブレイクの定義」を作成した。 電子カルテ上に、検査結果から経路別予防策の必要な患者に対する経路別のタグが、原則として自動的に掲載される。また、病棟毎の感染症マップでは、経路別予防策の必要な患者一覧ができる。 感染症マップから病棟毎の耐性菌検出症例が把握できるので、集計・分析を行い、月例の院内感染対策委員会においてフィードバックしている。 医療従事者の針刺し・切創について感染症科の協力を得て常時対応している。 独立した感染症科が組織横断的なコンサルテーション診療による適正抗菌療法を図っている。 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）を組織し、継続的に活動している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年50回以上
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤部の活動 <ul style="list-style-type: none"> 新人看護職員研修会オリエンテーション、新人看護師の薬剤部における実地研修 ・ 薬の処方および麻薬の取り扱いについて（レジデントオリエンテーション） ・ 危険薬の取り扱い等について（病棟担当薬剤師による説明会） ・ 全職員対象の医療安全講習会 など 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂 ・ 医薬品の安全使用のための業務手順書に基づくチェックリストの作成 ・ チェックリストによる実施状況の確認（手順書の遵守状況確認） ・ 院内巡視による医薬品の管理状況等安全使用に関わる状況の確認 ・ 私立医科大学病院医療安全相互ラウンドの実施（web開催） ・ 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施 ・ 未承認等の医薬品の使用状況の把握・周知 ・ 医薬品の安全使用にあたり重要な情報の収集・周知 ・ 院内で発生した副作用報告を薬剤部とQSセンターが連携して収集して薬剤部で一元管理し、収集した院内及び院外の副作用情報をDIニュースとして医師・看護師等に周知 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <p>2022年度承認件数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内未承認薬：25件 <ul style="list-style-type: none"> 海外承認：Omegaven、シドフォビル、レトロビルシロップ・静注用、ジドブジンシロップ、ロアキュタンなど 院内製剤：ベクロメタゾン散・カプセル、セレン内服液、眼科用エチレンジアミン四酢酸（EDTA）液など ・ 禁忌薬の使用：11件 <ul style="list-style-type: none"> ビソプロロールフマル酸塩錠の妊婦への使用 ミネプロ錠とK製剤の併用 セララ錠とK製剤の併用 血栓症の既往のある患者への不妊治療のため女性ホルモン製剤の投与など ・ 適応外使用：139件 <ul style="list-style-type: none"> ロイケリン散の潰瘍性大腸炎への使用 免疫グロブリン製剤の自己免疫性脳炎への使用 抗がん剤の適応・用法用量の承認外での使用 サラジェン顆粒の含嗽での使用 小児適応の無い製剤の小児への使用（ウプトラビ錠、クロザリル錠など） 	

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 医療の質向上・安全推進センター（QSセンター）への専従薬剤師配置によるQSセンターと薬剤部の連携
 - ・ 医薬品安全管理責任者（医師，薬剤部長）及び医薬品安全管理副責任者（薬剤師）はQSセンターと兼務
 - ・ PMDAメディナビおよび日本医療機能評価機構等からの医療安全情報の収集、製薬会社等からの医薬品安全情報の収集を行い、重要な情報はQSマネージャー会議を通して全職員へ周知
 - ・ 未承認等の医薬品に関する情報のQS委員会への報告、QSマネージャー会議を通して全職員への周知
 - ・ 医薬品安全管理部会における医薬品の安全使用のための検討
 - ・ 医薬品の安全使用に関わる運用変更について、QS委員会への報告、QSマネージャー会議を通して全職員への周知
 - ・ QSセンターカンファにおいて医薬品に関するインシデントに関わる情報の収集、改善対策の検討・提案・実施
 - ・ QSセンターの院内巡視に同行して部署での医薬品管理状況等を確認し、問題点の指摘、改善対策の検討・提案
 - ・ 医療安全講演会を通して医薬品の安全使用に関わる教育、情報・対策等の周知
 - ・ 医薬品の安全使用に関する検討事項について、医薬品安全管理部会で改善対策を検討し、QS委員会に改善対策案を提示して承認取得後、QSマネージャー会議を通して全職員への周知
 - ・ インシデントレポートを通して得た事例を、必要に応じて日本医療機能評価機構へ症例報告など

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 80 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： ・ 新規医療機器導入時の取り扱い説明・研修 ・ 人口呼吸器・補助循環措置・AED・CHDF装置等の安全研修 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <p>人口心肺装置・補助循環装置・人口呼吸器・血液浄化装置・除細動器(AED含む)・閉鎖式保育器・CTエックス線装置・診療用高エネルギー放射線発生装置・診療用放射線照射装置、その他の保守契約締結機器の保守点検</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)： <p>Ultra Essence 乳房乳輪再建術刺青用に使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 医療安全情報・PMDA・メーカーからの情報収集 ・ インシデント事案の分析・検討し、現場へフィードバックを行う ・ 定期的に広報誌を発行し現場への周知を行う 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療の質向上・安全推進センター、医療の質向上・安全推進委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、臨床感染症センター、医療放射線安全推進センター等を統括する。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（12名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品安全管理責任者の指示の下、薬剤部医薬品情報室担当者により医薬品に関する安全性情報の収集・整理・院内職員への周知が行われ、病棟担当薬剤師からも担当病棟への情報提供を行っている。 ・PMDA メディナビおよび日本医療機能評価機構等からの医療安全情報、製薬会社等からの医薬品安全情報等を利用して定期的に行っている情報収集・整理・周知の他、臨時で行う緊急性のある情報提供では、薬剤部医薬品情報室担当者と連携し、院内メールや院内ポータルサイト、紙面等を適切に利用して情報の周知を行っている。 ・医薬品の安全使用に関わる運用変更について、QS 委員会へ報告し、QS マネージャー会議を通して全職員への周知を行っている。 ・QS マネージャー会議において、医薬品の安全性に関わる情報・未承認薬等の情報を報告し、全職員に周知している。 ・院内で発生した副作用報告を薬剤部と QS センターが連携して収集し、薬剤部で一元管理している。また、収集した院内及び院外の副作用情報を DI ニュースとして病棟担当薬剤師等を通じて医師・看護師等に周知している。 <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>・未承認薬・医薬品の適応外使用および禁忌に該当する使用について、QS センターと薬剤部 DI 室が連携して対応している。QS センターで申請を受け付け、QS センターの専従薬剤師及び事務員が書式・申請内容等の確認を行った後、薬剤部 DI 室の薬剤師が事前評価を行い、QS センターに情報提供し、QS センター管轄下の未承認新規・適応外医薬品等評価委員会で審査・経過確認を行っている。なお、未承認等の医薬品の使用に係る審査・経過報告等の情報は QS センターで管理しており、承認された医薬品に関しては、QS 委員会へ報告し、QS マネージャー会議を通して全職員への周知等を行っている。</p>	

- ・ 臨床倫理に関すること
- ・ 特定診療に関すること
- ・ 未承認新規医薬品・医療機器に関すること
- ・ 渉外に関すること
- ・ インフォームドコンセントに関すること
- ・ 高難度新規医療技術に関すること
- ・ 適応外医療機器等に関すること

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（43件）、及び許可件数（43件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合には、関係学会から示される「高難度 新規医療技術の導入を検討するに当たっての基本的な考え方」やガイドライン等を参考に実施する
 - ・ 審査と実施状況の監査、モニタリングを行う
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（27件）、及び許可件数（27件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - ・ 未承認新規医薬品等の使用に関する審査を行う。
 - ・ 未承認新規医薬品等に関する監査、モニタリングを行う。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 702 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 181 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - ・全死亡症例について、問題症例はなかったか確認する。
 - ・レベル 3B 以上の事例について検討を行う。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（）（病院名：埼玉医科大学病院）・無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（）（病院名：埼玉医科大学病院）・無
- ・技術的助言の実施状況
 - ・電子カルテと連動した転倒転落危険度のベッドネーム表示は、タイムロスなく正しい情報を共有することが可能なため、転倒転落だけでなく災害時にも効果的な方法であると感じました。
→災害時の使用という視点での周知はしておりませんでしたので、機会を見て周知を検討する。
 - ・医療機器の管理について、電子レンジなど電波障害の原因になる機器の管理もある程度は必要かと思いました。
→情報収集したところ、現在のところ大きな影響は見受けられないため対応は見送ることとした。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
患者サポートセンター、患者相談室

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
 - ・全職員対象医療安全講習会
 - ・新入職者対象医療安全講習会
 - ・研修医対象ポンプ・危険薬研修
 - ・新人看護師対象医療安全研修会
 - ・研修医対象医療安全セミナー

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者（川合 謙介）

令和4年11月30日

2022年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構主催）受講

医療安全管理責任者（新保 昌久）

令和4年11月30日

2022年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構主催）受講

医薬品安全管理責任者（今井 靖）

令和5年2月2日

2022年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構主催）受講

医療機器安全管理責任者（川人 宏次）

令和5年2月20日

2022年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構主催）受講

医療放射線安全管理責任者（森 壱）

令和4年11月21日

2022年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構主催）受講

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価【一般病院3】

訪問審査受審日：2021年11月29日～12月1日

確認審査受審日：2023年4月26日

認定期間：2020年12月19日～2025年12月18日（4回目の認定）

認定証交付日：2023年6月2日

- ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

当院ホームページに公表している。

- ・評価を踏まえ講じた措置

(1) SSI サーベイランスの対象拡大

手術部位感染（SSI）サーベイランスについて、「心臓血管外科手術部位感染サーベイランス計画書」を作成し、3種の術式コードに当てはまる手術について、2022年10月の手術よりサーベイランスを開始した。

(2) 臨床指標を活用した医療の質向上活動

組織横断的な質向上活動を実現するため、2022年度から新たに総合的医療の質改善推進委員会を設置し、質改善活動の取り組みを検討している。日本医療機能評価機構「医療の質可視化プロジェクト」を活用した質改善活動や、病院機能指標を用いた質改善活動等について検討を行っている。

(3) 高難度新規医療技術等の実施後確認および医薬品の適応外使用の管理強化

- ・高難度新規医療技術等の実施後確認について、マニュアルに審査・監査終了後の定期的報告の規定を新たに定めるとともに、高難度新規医療技術審査終了通知書を定めた。規定の症例数の審査終了後、高難度新規医療技術審査終了通知書の発行日から同年12月31日までを1年目とし、期間内の実施件数と重篤な有害事象の発生件数を年度末までに報告、以後は1月1日から12月31日の1年間の状況を年度末までに定期的に報告し、この定期的報告を4年間求める体制を構築し、継続している。
- ・適応外医薬品について、リスク分類を定め、リスク分類に応じた同意取得の方法や経過報告の方法、副作用報告基準を明確にした。審査は従来の薬事委員会から未承認新規・適応外医薬品等評価委員会に引継ぎ、委員会は必要に応じて開催するほか、月に一度の定例会議を開催し、妥当性や使用経過等を改めて確認している。また、半年に一度を目途に報告書を用いて診療科から報告を求めることにした。

(4) 全職員を対象とした定期的なBLS訓練の実施と受講者の把握

全職員を対象に受講状況調査を年に一度実施している。実技訓練は、医師及び看護師の合同訓練を部署ごとに3年に一度のローテーションで実施できるよう毎月1部署の実施で運用を開始

し、看護部においては各部署で年1回の訓練の実施等、定期的な訓練を企画し、実施している。

(5) 薬剤師による処方鑑査の徹底

2022年6月より薬剤部内の薬剤師配置を大きく変更し、病棟支援業務の強化を行ったことにより、一部の病棟において病棟担当薬剤師が調剤後の処方箋鑑査を開始した。服薬前の鑑査体制を敷くことで、患者の状態や適応外使用の可否及び適正使用状況等の確認を実施している。

(6) 読影率の向上

読影率の一層の向上に向け、画像診断医の業務分担を見直し、医師事務作業補助者の活用によるタスクシフトを行う等、業務効率化を図り画像診断機能が適切に発揮されるようになった。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人格、識見ともに優れ、かつ、教育、診療等においても指導力を発揮し得る能力を有すること。 ・ 臨床医学系又は基礎医学系の大学教授（これに相当する職を含む。）の経歴を有し、かつ、医師の資格を有すること。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 ） ・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> 大学HPにて公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有) 無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 病院運営に必要な組織、財務、診療、医療安全、教育研修、広報等に関すること ・ 審議の概要の従業者への周知状況 ポータルサイト、診療代表者会議にて周知 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（有 (無)） ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（有 (無)） 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
川合 謙介	○	医師	病院長
竹下 克志		医師	副病院長
松村 正巳		医師	副病院長
西野 宏		医師	副病院長
藤原 寛行		医師	副病院長
新保 昌久		医師	副病院長
今井 靖		医師	副病院長
大海 佳子		看護師	副病院長
北山 丈二		医師	病院長補佐
小坂 仁		医師	病院長補佐
讃井 将満		医師	病院長補佐
堀江 久永		医師	病院長補佐
鈴木 昭広		医師	病院長補佐
小池 創一		医師	病院長補佐
興梠 貴英		医師	病院長補佐

山本 真一		医師	病院長補佐
森 壘		医師	病院長補佐
平寄 正俊		事務職員	病院事務部長
藤田 康幸 (オブザーバー)		事務職員	総務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
 - ・ 附属病院の内部組織、職及び運営について「自治医科大学附属病院組織に関する規程」
 - ・ 病院執行部の組織及び運営について「病院執行部規程」
 - ・ 病院執行部の補佐及び診療運営について「自治医科大学附属病院運営組織に関する規程」
 - ・ 附属病院の予算執行権限について「学校法人自治医科大学決裁規程」

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
別紙「令和5年度 病院長、副病院長、病院長補佐の職務・役割分担及び執行部会議構成員」参照

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容： 附属病院における医療安全管理、医薬品安全管理、医療機器安全管理等が管理者の下で適切に実施されているかどうかを確認し、必要に応じて是正措置を講ずるよう開設者及び管理者に意見を表明する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (有 (無))</p> <p>・ 公表の方法： 病院ホームページに掲載</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
尾澤 巖	地方独立行政 法人 栃木県立 がんセンター 理事長／セン ター長	○	医療機関の管理 者として、医療機 関の安全管理を 総括・管理してい る経験を有する 立場で意見を述 べる者	無	1
内山 聖	(公財)新潟県 保健衛生セン ター副会長 長岡崇徳大学 常任理事		医療機関の管理 者として、医療機 関の安全管理を 総括・管理してい る経験を有する 立場で意見を述 べる者	無	1
山口 育子	認定NPO法 人 ささえあい 医療人権セン		患者団体の理事 長として医療問 題に精通してお	無	2

	ターCOML 理事長		り、医療を受ける者の代表として意見を述べる者		
大槻 マミ 太郎	自治医科大学 副学長		自治医科大学副学長として、大学理事の立場で意見を述べる者	無	1
齋藤 正昭	自治医科大学 附属さいたま 医療センター 医療安全管理 室 室長		自治医科大学附属さいたま医療センター医療安全管理室長として、医療安全管理の専門の立場から意見を述べる者	無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

学校法人自治医科大学監事監査規程に基づき、監事による定期的な監査を実施。

- ・ 専門部署の設置の有無（ 有 無 ）
- ・ 内部規程の整備の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 内部規程の公表の有無（ 有 無 ）
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <p>年2回開催し、附属病院の予算案及び予算執行状況並びに組織管理体制、人事等について審議を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議体の実施状況（ 年2回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> 有・無 ）（ 年2回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 <input checked="" type="radio"/> 無 ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 QS マネジメントマニュアルに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要	